

- みんなでつくる 安心,希望,支え合いのまち 柏 -

「新中央図書館」整備基本構想

平成19年3月

柏市教育委員会

目次

(本構想書の概要)

1 新中央図書館の検討背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- (1) 新しい時代の図書館サービスを求めて
- (2) 柏市のめざす図書館サービス2001計画
- (3) 柏中学校整備基本計画
- (4) 新中央図書館整備基本構想
- (5) 検討背景の年表

2 図書館をめぐる近年の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

- (1) ニーズの多様化
- (2) 高度情報化
- (3) 本格的な少子高齢化
- (4) 地方分権社会の進展
- (5) ライフスタイルの変化
- (6) 図書館に関する国の動向
- (7) 世界的な図書館ネットワーク

3 柏市立図書館の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

- (1) 現状の柏市図書館網
- (2) 柏市図書館網の変遷
- (3) 現状の柏市図書館網の概要
- (4) 柏市図書館網の特徴
- (5) 分館の特徴
- (6) 柏市立図書館における課題
- (7) 市民アンケートにみる課題

4 新中央図書館の基本的な考え方・・・・・・・・・・ 17

- (1) 新中央図書館の基本方針
- (2) 新中央図書館の展開
- (3) 新中央図書館の機能

5 施設活動の基本的な考え方・・・・・・・・・・ 27

- (1) 施設活動の基本方針
- (2) 新中央図書館のサービス
- (3) 資料計画

6 施設計画の基本的な考え方・・・・・・・・・・ 31

- (1) 施設全体の整備方針
- (2) 必要諸室の構成

7 立地の基本的な考え方・・・・・・・・・・ 37

- (1) 立地適地の抽出条件
- (2) 立地候補地
- (3) 立地適地の比較検討
- (4) 新中央図書館整備に関する懸案事項

8 事業手法の基本的な考え方・・・・・・・・・・ 52

- (1) 事業手法の基本方針
- (2) 事業手法の特徴

9 今後の方向性・・・・・・・・・・ 56

- (1) ワークショップからパートナーシップへ
- (2) 今後のスケジュール

(用語集)

本文において下線の付された語は、用語集に解説があります。

はじめに

今、全国の各図書館では、地域や市民に役立つ情報拠点として認識されるために、様々な改革が進められております。

柏市においては、本館機能の強化を改革の第一歩としてとらえ、本年度、本館機能強化に関し、その具体的な方策を検討するとともに、今後の新たなサービスについて提案を行ったところです。今後も本館機能強化に係る検討を継続的に行っていくとともに、新たな施設整備として、子ども図書館及び新中央図書館の整備を進めてまいります。

現在の柏市立図書館本館は、30年前の昭和51年3月にオープンし、施設の老朽化が進んでおります。

このようななか、市民のみなさまからの新しい図書館の建設を望む声が増えてきていることから、様々な市民の声を反映した新しい図書館像と方向性について調査・研究を行い、「新中央図書館」整備基本構想を策定いたしました。

柏市の図書館が市民の身近な存在となるためにも、さらなる図書館事業の改革に取り組み、着実に推進していくことが大切だと考えております。そのことを通じて柏市全体が活性化されることを期待しております。

この基本構想策定にあたり、活発に議論を重ねていただきました有識者懇談会の各委員をはじめ、アンケート調査、ワークショップ及びパブリックコメントで貴重なご意見・ご提言をお寄せいただいた市民のみなさまに、心からお礼を申し上げます。

平成19年3月

柏市教育委員会

教育長 矢 上 直

本構想書の概要

新中央図書館とは

多種多様な「情報」に触れやすく、活用しやすくすること
市民一人ひとりの自己を高めること
市民一人ひとりの自立的な判断を行うことを支えること



柏市のまちづくりにおける情報拠点として核となること



～情報拠点の核～

人と情報をつなぐ・人と人をつなぐ

- キーワード「つなぐ」 -

「市民」を
つなぐ

市民に身近で安らげる情報拠点

一人でも多くの市民に利用してもらうために利便性の向上を図る

「資源」を
つなぐ

柏市らしい情報拠点

柏市が現有する人・物・情報資源を有効活用し、柏市らしさを創出する

「分館」を
つなぐ

新しい図書館網の情報拠点

16分館は、柏市の貴重な財産として維持していく

新中央図書館の施設活動とは

幅広い情報，専門的な情報，多様な活動を提供すること
市民の様々なニーズに応えること
図書館の多様な機能の広報を図ること



効率的な図書館事業を展開させること



利用者の声を常に反映させる

**積極的
な広報**

- ・ ホームページや広報紙，図書館イベント等を開催
- ・ 施設整備段階の情報に関しても公開

**顧客
満足度**

- ・ ご意見箱を設置
- ・ アンケートによる意識調査，動線等の調査

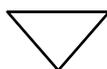
**新たな
収入源**

- ・ ホームページのバナーや玄関マット等の広告
- ・ 様々な可能性を検討

新中央図書館の施設計画とは

東葛飾地域のあらゆる情報をリードすること

世代や市域を越えて多くの人々が資料・情報に触れること



新たな情報文化の発展に寄与していくこと



柏市の「きのう」「きょう」「あした」
と市民をつなぐ

安全性

安全かつ快適に利用できる

利便性

市民が使いやすく交流できる

自在性

フレキシビリティがあり市民が
長く利用できる

1 新中央図書館の検討背景

公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準によると、市町村立図書館の運営の基本は、住民のために資料や情報の提供等直接的な援助を行う機関として、住民の需要を把握するよう努めるとともに、それに応じ地域の実情に即した運営に努めるものとするがあります。

現在、柏市立図書館では、社会情勢の変化や利用者の多様なニーズへの対応等多くの課題を抱え、新たな取組みが求められています。

そこで、過去に新中央図書館の整備に係る検討についての報告書を整理した上で新しいビジョンを示していきます。

(1) 新しい時代の図書館サービスを求めて（平成元年11月）

平成元年1月に図書館の将来像プロジェクトチームを発足し、柏市第三次総合計画に柏市立図書館新中央館構想を位置づけること、当時の業務内容の問題点及び今後の図書館運営のあり方について提案することを目的として、本報告書は取りまとめられました。図書館職員により作成された本報告書は、提案だけにとどまり、新中央館の建設が具体化することはありませんでしたが、その後の計画作成にあたって、大きな役割を果たすこととなりました。

当時めざした新中央館は、新中央館にオンライン・システムを導入することにより、国内外の図書館等をネットワーク化し、情報の集積を図り、情報網の拠点とする考えでした。

なお、現在の本館は市中央部の地区館と位置づけ、新中央館が市北部に実現した場合は、市南部にも現本館と同規模の地区館を建設し、また、新中央館が市南部に実現した場合は、市北部に地区館を建設することとしていました。

新中央館は市域全体の核となると同時に、これら新中央館・地区館にはそれぞれ市北部、中央部、南部地区の核として分館活動をサポートする機能をもたせることとしていました。

これにより、新中央館、地区館、分館、移動図書館及び他の機関との連携という、図書館網の構築をめざしていました。

(2) 柏市のめざす図書館サービス2001計画（平成2年3月）

柏市第三次総合計画に新本館の建設を位置づけるため、本計画書が策定されました。本計画では、柏市の図書館の現状を明らかにするとともに21世紀に向けた新たな計画として、分館網の再編及び分館施設の拡充、地区館の設置、本館機能の拡大と質的充実が提案されました。

しかし、本計画書では、財政面における検討を十分に行わないまま、蔵書、施設、サービス等の充実をめざしたため、その後の厳しい財政状況のなかでは実現が困難となりました。その結果、柏市第三次総合計画の基本計画（平成3年～平成12年）においては、新中央図書館を建設すると位置づけられていたものの、その後の基本計画改訂（平成8年～平成12年）の際には、新中央図書館の建設準備を進めるとともに、新しい図書館サービスネットワークについて検討を図るという表現に修正されました。

当時めざした新中央図書館は、現在の本館の位置に建て替えることは、建設期間中図書館機能が大きく低下することや、必要な建築規模をみたすには用地の広さが不十分であること等から、新たに用地を取得して建設することとし、本館の規模は、13,000㎡とする考えでした。

地区館は原則として、新中央図書館の位置決定後、新中央図書館と近接しすぎないように配慮して配置することとしていました。

なお、現在の本館は地区館の一つとして再構築を図り、地区館の開架冊数12万冊、施設面積2,400㎡を予定していました。

分館は、本館と地区館位置決定後、それぞれのサービス人口や立地条件を考慮して施設の再整備を行うこととしていました。

(3) 柏中学校整備基本計画（平成5年12月）

本計画書においては、柏中学校の施設配置における使いづらさや老朽化、生徒数の減少傾向等をふまえ、柏中学校を適正規模で再整備するとともに、余剰地への優先すべき主要事業の決定を行うことを目的に検討が行われました。

なお、余剰地の土地利用については、学校敷地内でもあることから、教育関連施設を整備することとし、市民のニーズの高い新中央図書館及び生涯学習センターを建設することが提案されました。

こうして本計画のなかでは、柏中学校の建て替えに伴い、図書館の配置が計画されることとなりましたが、財政面における制約から体育館の移設は繰延べとなり、体育館の移設後に建設が予定されていた図書館については、継続検討とされました。

当時めざした新中央図書館は、地域開放を基本とした用地25,000㎡の中学校を整備し、学校を含めた40,000㎡全体を生涯学習プラザとして位置づけ、残余地の15,000㎡は、新中央図書館と生涯学習センターの複合施設として整備する考えでした。

(4) 新中央図書館整備基本構想（平成19年3月）

平成18年5月に学識経験者や関係団体等からなる新中央図書館整備基本構想策定有識者懇談会を設置し、計6回開催しました。会議内容については、新中央図書館の基本的な理念や必要とされる施設等について方向性を示すこと。複数の新中央図書館建設候補地について抽出し、整理すること。建設、運営及び管理に当たり、PFIをはじめとする様々な民間活力を活かした事業手法について検討が行われました。

また、市民からの意見を聞くワークショップ、アンケート、パブリックコメントを実施しました。

それらをふまえ、新中央図書館整備基本構想書が作成されました。

(5) 検討背景の年表



平成 3 年 (1991) 3 月

柏市第三次総合計画 基本計画

(H3～H12)

より高度な図書館サービスを提供するため、新中央図書館を建設するとともに、分館を整備し、図書館網の充実を図ります。

平成 8 年 (1996) 3 月

柏市第三次総合計画 基本計画・改訂

(H8～H12)

より高度な図書館サービスを提供するため、新中央図書館の建設準備を進めるとともに、新しい図書館サービスネットワークについて検討を図ります。

平成 13 年 (2001) 3 月

柏市第四次総合計画 前期基本計画

(H13～H17)

今後の情報化時代に対応し、市民の多様な学習活動にも役立つ機能を備えた新・中央図書館整備と地域の身近な図書館である分館のあり方について検討します。

平成 16 年 (2004) 5 月

新市建設計画

合併後、新市における生涯学習施設の拠点として、図書館機能の計画的な整備・充実を推進する。

平成 16 年 (2004) 12 月

市議会平成16年第4回定例会において、「新中央図書館について(誰もがバリアフリーで使える、新中央図書館を市民参加で建設してください)」を採択

平成 18 年 (2006) 3 月

柏市第四次総合計画 中期基本計画

(H18～H22)

今後の情報化時代に対応し、市民の多様な学習活動を支援する機能を備えた新中央図書館整備と地域の身近な図書館としての分館のあり方について検討します。

昭和 51 年 (1976) 3 月

図書館本館 open

平成元年 (1989) 3 月

「新しい時代の図書館サービスを求めて」を報告

平成 2 年 (1990) 3 月

「柏市のめざす図書館サービス2001計画」を報告

平成 5 年 (1993) 12 月

「柏中学校整備基本計画」を報告

平成 17 年 (2005) 3 月

柏市・沼南町合併

平成 19 年 (2007) 3 月

「新中央図書館整備基本構想」を報告

2 図書館をめぐる近年の状況

(1) ニーズの多様化

近年，産業・経済構造の変化に伴う雇用構造の変化や余暇時間の増大等を背景に，職業能力の開発，キャリア・アップ，生きがいを求めている生涯学習に対する新たなニーズが高まってきており，市民は以前にも増して，生活や仕事に役立つ情報を図書館に求めるようになってきています。

利用者の多様なニーズに対応できるよう，図書等の情報に対する充実と図書館職員の意識改革を図ることが求められています。

(2) 高度情報化

社会の高度情報化，電子化が進むなか，図書館においてもインターネット等の活用，図書館資料の電子化・データベース化等の多様な情報を提供できる取り組みが必要とされています。そのことにより，取り扱う情報量が飛躍的に増加する一方，市民の情報格差問題への対応も必要とされています。

(3) 本格的な少子高齢化

少子高齢化・核家族化が急速に進展するなか，公共施設では幼児から高齢者まで幅広い年齢層への対応が求められています。図書館においても，高齢者にとって利用しやすい施設，設備，サービスを提供するとともに，子どもの読書離れに対し，幼児期からの読書習慣の形成や，多くの情報の中から子どもたちが自ら情報を選別していく能力の養成について重要な役割を果たしていくことが期待されています。

(4) 地方分権社会の進展

平成7年に「地方分権法」が制定され地方分権が進むなか、中核市をめざす柏市としては、個性豊かな自立したまちづくりを効率的かつ効果的に推進することが期待されることから、図書館サービスの計画や実施にあたっては、地域の実情をふまえつつ知的活動の拠点としてのオリジナリティある図書館づくりが求められています。

柏市には、大学や研究機関も多く、それらと連携することにより、利用者の多様な資料のニーズに応じる等、地域の資源を活かしたより良いサービスの提供が可能と考えられます。

したがって、今後は、公立図書館の広域ネットワーク(国・県・市町村間)を構築するとともに、市内の大学や研究機関との連携により、資料や情報の相互利用等の協力活動を積極的に行い、市民への多様な情報の提供を実現していくことが求められています。

(5) ライフスタイルの変化

市民の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、余暇や自由時間が増大するなか、図書館の利用形態も多様化しつつあり、だれもが、いつでも、快適に利用できる図書館、図書を検索し閲覧するだけでなく様々な知的活動のために時間を過ごすことができる図書館、地域社会に情報を発信する図書館が求められています。

(6) 図書館に関する国の動向

ア 2005年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて～
(平成12年12月)

平成12年11月、国の生涯学習審議会より「新しい情報通信技術を活用した生涯学習推進方策について」がとりまとめられました。そのなかで、公立図書館の課題について言及し、これからの図書館は、市民の生涯学習に応える中心的な施設であり、また、地域の情報拠点としての役割を果たしていくために新しいサービスの創造が求められると提起しています。

これを受けて、地域電子図書館構想検討協力者会議より同年12月「2005年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて～」が取りまとめられました。この報告書では、将来における地域電子図書館化による、新しい図書館環境の形成をめざして、各地域の各公立図書館自身が優先的に取り組むべき課題等について、その考え方を示したものです。さらに、地域電子図書館の実現やその機能の充実を進めていく上で、図書館関係者全体が、自ら検討し対応すべき事柄に関する指針が示されました。

イ 公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成13年7月）

社会の様々な変化に伴って、高度化し多様化する住民の学習要求に適切に対応するため、生涯学習の振興や地方分権の推進等が進められるなか、平成10年9月の生涯学習審議会答申において、図書館法第18条の「公立図書館の設置及び運営上望ましい基準」を検討することが必要とされました。

これを受けて、平成13年7月に文部科学省が「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を告示しました。都道府県立図書館及び市町村立図書館における、運営の方針や資料の収集・提供、レファレンスサービス等の充実、多様な学習機会の提供、ボランティアの参加促進、職員の配置、図書館協議会の設置等に対する望ましい基準を示しており、この基準は、公立図書館の健全な発達のために、図書館界では長年待ち望んだものでした。

ウ 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月）

情報メディアの普及・発展や生活環境の変化等により、子どもの活字離れが懸念されるようになってきています。そのようななかで、読書の持つ意義を再認識する動きが高まり、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されました。

この法の基本理念として、「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で、欠くことのできないものである」として、「全ての子どもがあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にその推進を図らなくてはならない」と規定されました。

エ これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～
(平成18年3月)

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」施行後の社会や制度の変化、新たな課題等に対応し、地域や住民に役立つ図書館となるために、必要となる新たな視点や方策等について提言を取りまとめた「これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～」が、これからの図書館の在り方検討協力者会議（文部科学省）により報告されました。そこでは、これからの図書館は、調査研究の支援やレファレンスサービス、時事情報の提供等を充実することによって、地域や住民に役立つ図書館となり、地域の発展に欠かせない施設として存在意義を明確にすることが必要であるとしています。

(7) 世界的な図書館ネットワーク

米国オハイオ州に本部を置くOCLCは、世界最大の図書館相互協力ネットワークです。

目録、情報検索等、図書館が必要とするサービスを提供しており、2006年8月現在、110以上の国及び地域の57,000館以上の図書館が利用しています。図書館の相互協力によって、成り立っており、情報資源の共有、業務の省力化、経費削減等に貢献しています。

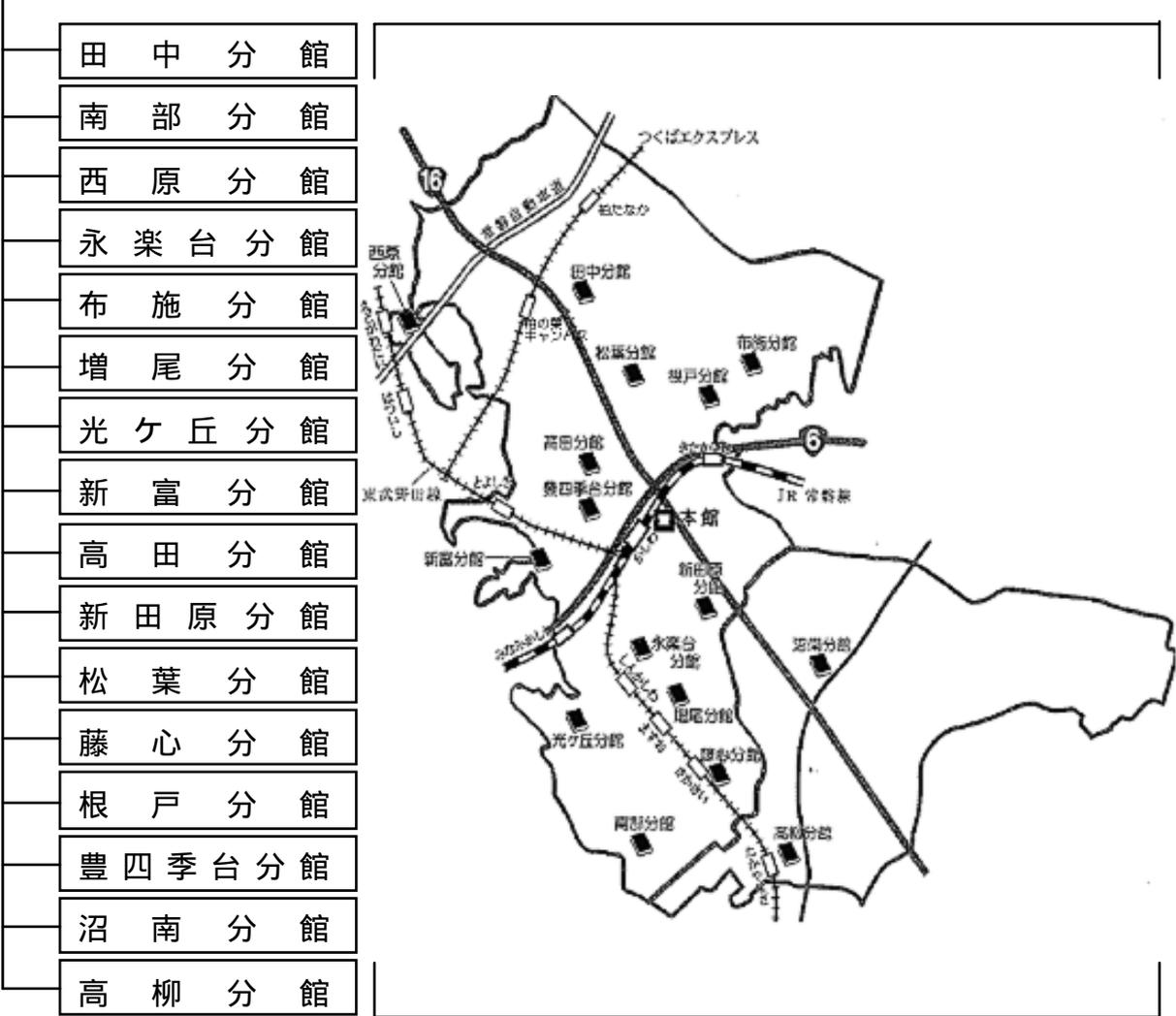
3 柏市立図書館の現状と課題

(1) 現状の柏市図書館網

柏市立図書館の前身である町立図書館は、昭和29年に設立されました。その後、昭和48年度に全市図書館網計画の策定を行い、昭和49年10月に豊四季台分館、昭和51年3月に図書館本館が開館しました。その後、昭和54年から昭和62年にかけて、13の分館を設置し、当初の図書館網が完成しました。平成17年3月に柏市と沼南町が合併し、新たに2つの分館が加わり、本館と16の分館で市内全域をほぼ覆う柏市の図書館網が確立されました。

図書館本館

【本館・分館の配置図】



(2) 柏市図書館網の変遷

1. 70年代

日本の公立図書館の成長期と重なり、76年に本館がオープン。「利用者の資料要求に応える」図書館の基本的な役割を貸出中心に展開していった。

2. 80年代

当時としては先駆的であった、コンピュータシステムが80年に導入され、図書館業務の効率化が進んだ。近隣センター内の分館設置が広がり、市民の殆どが身近なところで図書館サービスを受けられるようになった。

3. 90年代

成熟した利用者から、より質の高いサービスを求める声が高まり、図書館側も新しいサービス計画を作成するが、新中央図書館は実現しなかった。県内図書館ネットワーク等、相互貸借サービスを支える体制が広がり、本館の時間延長等のサービス改善も行われた。

4. 2000年代

2000年代に入り年々貸出が増加。利用者用図書検索・インターネット蔵書検索の各システム、ブックスタートが始まった。IT化・少子高齢化等の急速な変化により、利用者の要求はますます多様化・高度化し、新しいサービスの展開が求められている。

昭和49年(1974)

豊四季台分館 open

昭和51年(1976)

図書館本館 open

昭和53年(1978)

沼南分館 open

昭和54年(1979)

田中・南部・西原分館 open

昭和55年(1980)

永楽台・布施分館 open

昭和57年(1982)

増尾・光ヶ丘・新富分館 open

昭和58年(1983)

高田・根戸分館 open

昭和59年(1984)

新田原分館 open

昭和62年(1987)

松葉・藤心分館 open

平成14年(2002)

ブックスタート事業開始

平成17年(2005)

柏市・沼南町合併

新中央図書館
へ向けて

(3) 現状の柏市図書館網の概要

ア 図書館本館

図書館サービス網全体における中心的機能を担っています。

- ・サービス拠点の中心に位置し，分館のトータルサポートを行っています。
- ・調査・研究に対する専門的な資料を収集しています。
- ・各担当ごとに司書の専門職員を配置しています。
- ・障害のある人へのサービスの取りまとめと支援を行っています。
- ・資料の保存を集中して行っています。

イ 各分館

第一線のサービスポイントとしての機能を担っています。

- ・市民に最も近いサービスポイントとして，16館設置しています。
- ・身近な資料を中心に収集しています。
- ・地域の学校・保育園・幼稚園への支援を行っています。
- ・司書の専門職員を配置しています。

館名	面積 (m ²)	蔵書収容能力 (冊)
図書館本館	2,005	150,000
田中分館	172	30,000
南部分館	191	30,000
西原分館	105	25,000
永楽台分館	132	30,000
布施分館	196	30,000
増尾分館	168	30,000
光ヶ丘分館	187	30,000
新富分館	165	30,000
高田分館	137	30,000
新田原分館	110	25,000
松葉分館	205	30,000
藤心分館	147	30,000
根戸分館	118	25,000
豊四季台分館	198	30,000
沼南分館	380	43,000
高柳分館	127	20,000

(4) 柏市図書館網の特徴

柏市全体における貸出件数に占める分館の割合を見ると8割以上の人が分館を利用しています。地域に根づいた身近な分館は柏市の財産と言えます。平成17年度の貸出冊数合計は2,193,558冊,登録者合計は90,583人。

館名 (推定利用地域市民数)	児童書(冊) 一般書(冊)	合計(冊) 館別比率	利用者登録 (人)
図書館本館	113,093 225,558	338,651 15.4%	27,448
田中分館 (16,100)	20,651 48,614	69,265 3.2%	2,550
南部分館 (24,600)	43,856 71,920	115,776 5.3%	4,752
西原分館 (26,000)	32,770 68,832	101,602 4.6%	3,397
永楽台分館 (25,400)	52,186 71,805	123,991 5.7%	4,414
布施分館 (8,500)	24,958 55,609	80,567 3.7%	2,392
増尾分館 (24,400)	42,336 77,930	120,266 5.5%	4,215
光ヶ丘分館 (32,200)	63,379 112,803	176,182 8.0%	6,280
新富分館 (16,600)	41,166 78,960	120,126 5.5%	4,064
高田分館 (12,700)	33,687 55,150	88,837 4.1%	3,064
新田原分館 (17,500)	30,754 54,270	85,024 3.9%	2,310
松葉分館 (28,800)	69,361 145,042	214,403 9.8%	7,920
藤心分館 (15,300)	27,437 64,532	91,969 4.2%	3,544
根戸分館 (13,700)	31,948 52,476	84,424 3.9%	3,090
豊四季台分館 (19,500)	54,145 128,897	183,042 8.3%	5,489
沼南分館 (26,800)	30,881 90,344	121,225 5.5%	3,837
高柳分館 (20,700)	28,033 46,725	74,758 3.4%	1,817

(5) 分館の特徴

8割以上の人が分館を利用している状況を見ても、分館は、市民への図書館サービスの提供にあたって、非常に重要な役割を担っていると言えます。

ア 田中分館

T X 柏の葉キャンパス駅と柏たなか駅の間位置しています。今後、当該地区の人口増加に伴い利用の増加が見込まれます。

イ 南部分館

分館網整備の先駆けとして近隣センターに併設して設置し、公園に近接しています。児童書の貸出が多いです。

ウ 西原分館

市境に近いことから、市民以外の利用も多いです。他分館と比して小規模ですが貸出冊数は多いです。

エ 永楽台分館

児童センターが併設されており、近隣に小学校や公園もあるため、児童書の貸出冊数が全分館で最も多いです。

オ 布施分館

推定利用地域市民数に比して貸出冊数は多いです。分館の中で4番目の面積を有し、落ち着ける読書環境を提供しています。

カ 増尾分館

海上自衛隊下総教育航空群（下総航空基地）に近いことから防音対策が施され、静かな読書環境を提供しています。

キ 光ヶ丘分館

団地内に位置するとともに、大学、児童センター、商店街等に隣接しています。推定利用地域市民数は全分館で最も多いです。

ク 新富分館

市境に近いことから、市民以外の利用も多いです。推定利用地域市民数に比して貸出冊数は多いです。小学校に隣接し、児童の利用が多いです。

ケ 高田分館

高田緑地や大堀川遊歩道に近接しています。推定利用地域市民数に比して貸出冊数は多いです。

コ 新田原分館

住宅地に位置し，生活の中の身近な図書館として高齢者の利用が多く見受けられます。分館の中で2番目に面積が小さいです。

サ 松葉分館

住宅地に位置するとともに，スーパー等に隣接しています。登録者数，貸出冊数ともに，分館の中で最も多いです。

シ 藤心分館

閑静な住宅地に位置します。一般書の貸出率が分館の平均値より高く，高齢者の利用が多く見られます。

ス 根戸分館

学童保育施設が併設されていることから，児童書の貸出率は全分館の中で比較的多いです。

セ 豊四季台分館

銀行の支店を改修し，分館第一号として設置。団地の中心部に位置し，貸出冊数は松葉分館に次いで2番目に多いです。

ソ 沼南分館

公民館図書室を合併時に分館として設置。面積，蔵書とも分館の中で最大です。柏市の図書館網の中で唯一，ビデオとDVDを備え，貸出を行っています。

タ 高柳分館

旧沼南町のコミュニティセンター図書室を合併時に分館として設置。面積，蔵書とも小規模ですが，児童センターに隣接しているため，児童の利用は多いです。

(6) 柏市立図書館における課題

ア 施設が古く，狭い

現在の本館は，施設規模は決して大きいとは言えず，建設後30年以上が経過しています。また，蔵書数の増加に伴い，書架スペース，保存庫，通路等一杯の状態となっています。そのため，新しいサービスの展開はもとより，障害者サービス用のスペース，ボランティア活動用のスペースの確保が困難となっています。

イ IT化が遅れている

図書館に設置されているOPACは図書を検索だけのシステムとなっており，そこからの予約や図書に関連した様々な情報を付加し，発信・提供できるシステムとはなっていません。また，図書館のホームページは，図書館の利用案内，行事予定等が主となっており，図書館からの情報発信ツールとして活用されていません。

ウ 開館時間が短い

本館の開館時間は，基本的に午前9時30分から午後5時までとなっており，月曜日，祝日，年末年始等が休館日となっています。そのため，夜間や祝日に利用できず，都内に通勤している社会人等にとっては，利用しづらい状況となっています。

エ ボランティアの運営参加ができない

図書館が主催するイベントや様々な機関との連携によるイベントは，ほとんど行われていない状況です。

市民の学習意欲に応え得る様々な知的創造活動のための機能が図書館に求められている現在，十分に対応しきれていない状況にあります。

オ その他の課題（ARA）

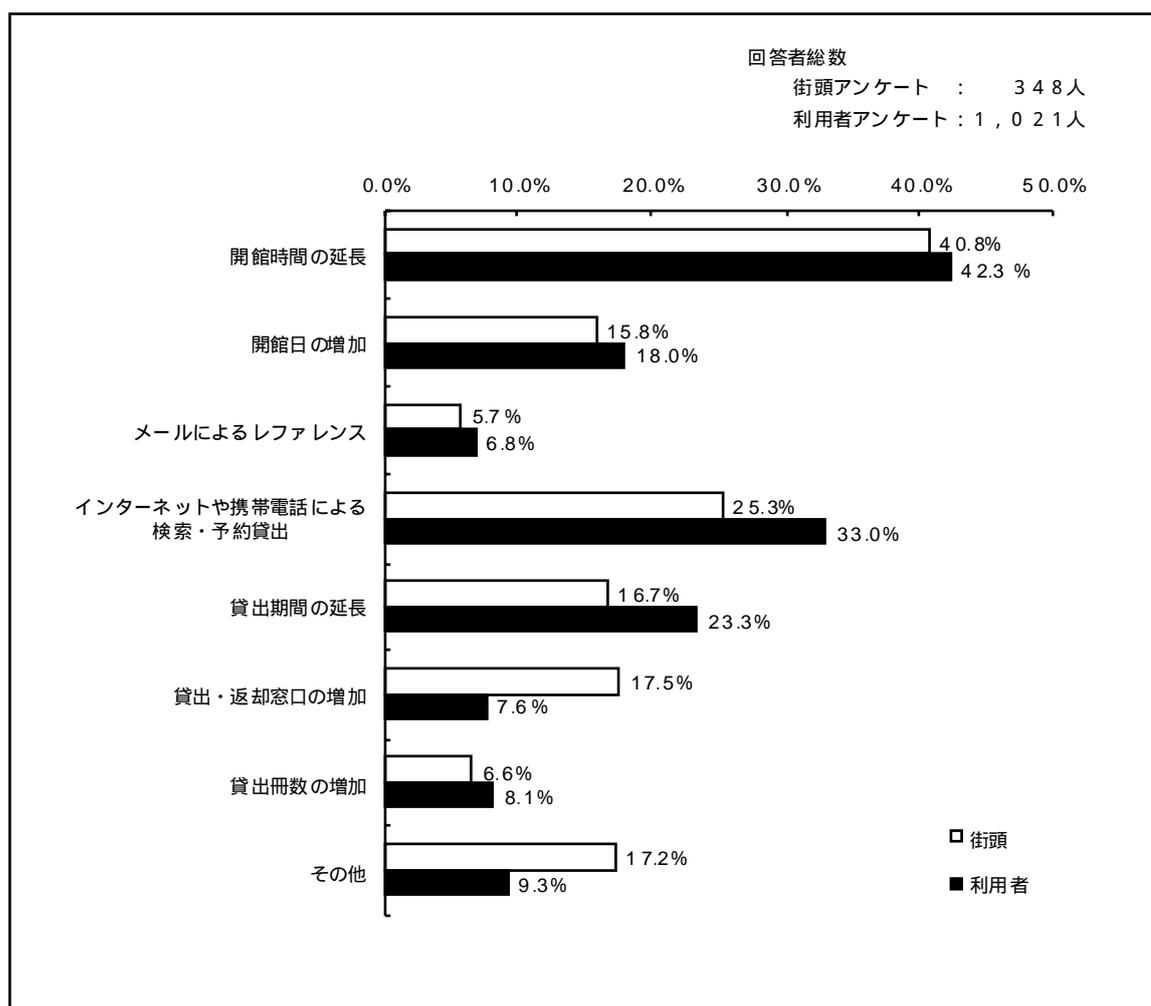
上記の他に，子どもの本と指導がない等の児童サービスの不足，レファレンス機能が充実していない，読書が困難な人のための配慮がなされていない等，図書館の重要な役割を十分に果たしていない状況にあります。

(7) 市民アンケートにみる課題

平成18年6月に実施した図書館の利用者及び街頭アンケート結果からうかがえる現図書館の利便性に関する課題については、一番に開館時間の延長があげられます。アンケート回答者の4割を越える数字となっています。放課後や勤務時間後等に利用したいとする市民が多い結果となっています。

次に、インターネットや携帯電話による検索・予約貸出があげられます。IT化が遅れている図書館を市民は不便に感じている結果となっています。

現在の柏市図書館網は、日常的に設備面、サービス面に不便を感じている市民が多く、利便性の向上こそ、新中央図書館を考えていく上で、最優先に取り組むべき課題です。



4 新中央図書館の基本的な考え方

(1) 新中央図書館の基本方針

今日、生活水準の向上や自由時間の増大、少子高齢化の進展等の社会の変化に伴い、人々の価値観は大きく変化しており、学習意欲はさらに高まっています。雇用形態や雇用制度の多様化により、転職やキャリア・アップに向けての学習の必要性が強まってきています。

さらに、様々な制度の変化や技術の進歩、情報の高度化が進展してきており、自己判断や自己責任を求める風潮が強くなっています。

つまり、これからの図書館に求められているものは、いわゆる「図書」という資料にとどまらない多種多様な「情報」にふれやすく、活用しやすい環境を作り出し、市民一人ひとりが自己を高めることや、自立的な判断を行うことを支えていくことです。

そこで、新中央図書館は、多様な情報を提供して、市民の知的欲求に応えていく情報拠点であるという認識にたち、新しい図書館像を構築していく必要があります。

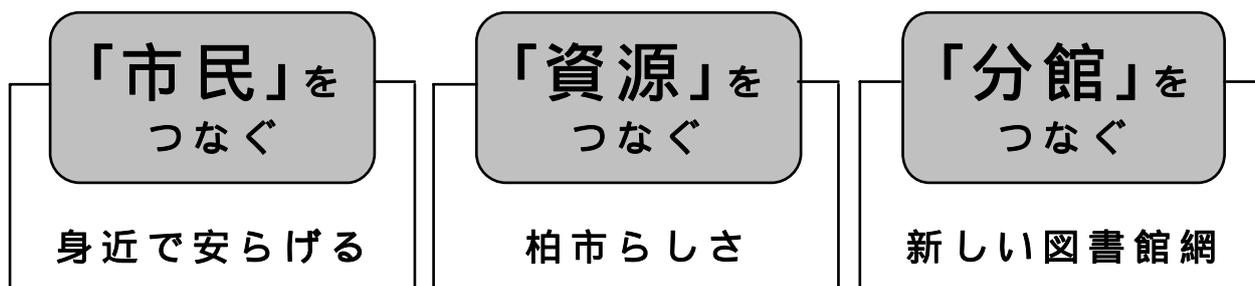
市民のより良い生活、地域社会を築くための基盤と考え、様々な交流による活性化と柏市らしい地域づくりを実現していきます。

それは、柏のまちづくりにおける情報拠点として新中央図書館が核となることです。

～ 情報拠点の核～

人と情報をつなぐ・人と人をつなぐ

情報拠点として、市民により身近に感じてもらうために「つなぐ」をキーワードとした多面的な展開を図ります。



(2) 新中央図書館の展開

ア

「市民」を
つなぐ

新中央図書館と市民を「つなぐ」
- 市民に身近で安らげる情報拠点 -

〔一人でも多くの市民に利用してもらうために利便性の向上をはかります〕

市民に身近で安らげる新中央図書館を情報拠点の基本コンセプトとすることによって、今までの課題であった設備面，サービス面における利便性の向上を最優先に考え，一人でも多くの市民に図書館を利用してもらうように整備します。

柏市には，市民ボランティア団体が数多く存在し，ボランティア活動が大変盛んな地域です。市民アンケートにおいても，「ボランティアに興味がある」という回答が多く得られています。

意欲的な市民には，準備段階から参加してもらい，市民と行政が一緒になって新中央図書館の整備を進めていくことは，市民にとって，愛着のもてる，より使いやすい図書館になるものと考えます。

現在，柏市ではブックスタート事業をボランティアの協力を得て行っていますが，それ以外においても，本の整理や修理，読み聞かせ，高齢者，外国人等のためのサービス，利用者のための案内・相談，検索支援等，ボランティアの協力を得て実施できる業務は多岐にわたります。市民が積極的に図書館運営に参加できるしくみをつくること，ボランティア等の育成が，図書館及び図書館職員の成長には欠かせないものです。

市民に身近で安らげる3つの視点は、以下のとおりです。

(7) いつでも安全でかつ快適で安心して利用し続けることができる新中央図書館のために、

あらゆる市民の探求心を育み、課題解決、自分発見、地域発見ができるきっかけづくりを行います。

- ・利用者が求めている資料を的確に探し出し、あるいは短時間で調査の回答を得られるように、レファレンスサービスの充実を図ります。
- ・一般書、専門書、地域情報、郷土資料の他に、社会の変化に適切に対応し、就職、転職、職業能力開発、日常の仕事等のための資料・情報を収集・保存し、利用者が有効活用できるように、分類、排架、展示等の工夫を行います。

(1) どこでも充実した情報を引き出すことができる多様な魅力と活動のあふれる新中央図書館のために、

本の魅力、まちの魅力について、様々な分野から資料収集や調査研究を重ね、新鮮でわかりやすい情報発信を行います。

- ・インターネットを利用した予約から電子メールでのレファレンス質問の受付までデジタルツールを利用したサービスを展開します。
- ・様々な電子情報やレファレンス回答等をデータベース化し、市民が広く活用できるよう配慮します。

(ウ) だれでも図書館活動に参加でき，世代を超えてふれあい，互いに支えあう新中央図書館のために，

常に成長する図書館網を実現させ，市民と行政の双方の対話を重視し，市民の参画を促進します。

- ・ デジタルツールによる市民同士の情報交流機能を組み込みます。
- ・ 日常的に生涯学習が実現できるよう，市民の発表の場を設けたり，そこから生まれる活動を育みます。
- ・ 友の会等の市民ボランティア組織をつくります。

イ

**「資源」を
つなぐ**

新中央図書館と柏市の資源を「つなぐ」
- 柏市らしい情報拠点 -

（ 柏市が現有する人・物・情報資源を有効活用し，柏市らしさを創出します ）

新中央図書館が市民の知的欲求を満たし，生涯学習の拠点となるためには，豊富な資料・情報の提供が必要となります。

しかし，新中央図書館が独自で多くの資料や情報を提供していくことは経済的にもスペース的にも不可能です。

そこで，柏市が現有する情報資源を最大限に有効活用し，自館で提供することができない資料や情報，サービスについては，他の機関や施設と連携・協力をすることによって，市民への充実した資料・情報提供を実現していくとともに，柏市ならではの図書館の価値を付加していきます。

また，柏市の行政部局への資料・情報面でのバックアップを行うことで，行政サービスの質の向上に貢献し，市民にとって暮らしやすいまちとなるようにします。

(ア) 人的資源の活用とは、

- ・ビジネスに関する図書やパンフレットの収集，展示等を行い，市民の要望に応えられるようにします。
- ・市民等の協力のもと，高齢者・障害者・外国人・児童等あらゆる人に対する図書館サービスのバリアフリーを進めます。
- ・教育現場との人的交流により専門的な分野の協力体制を確立します。

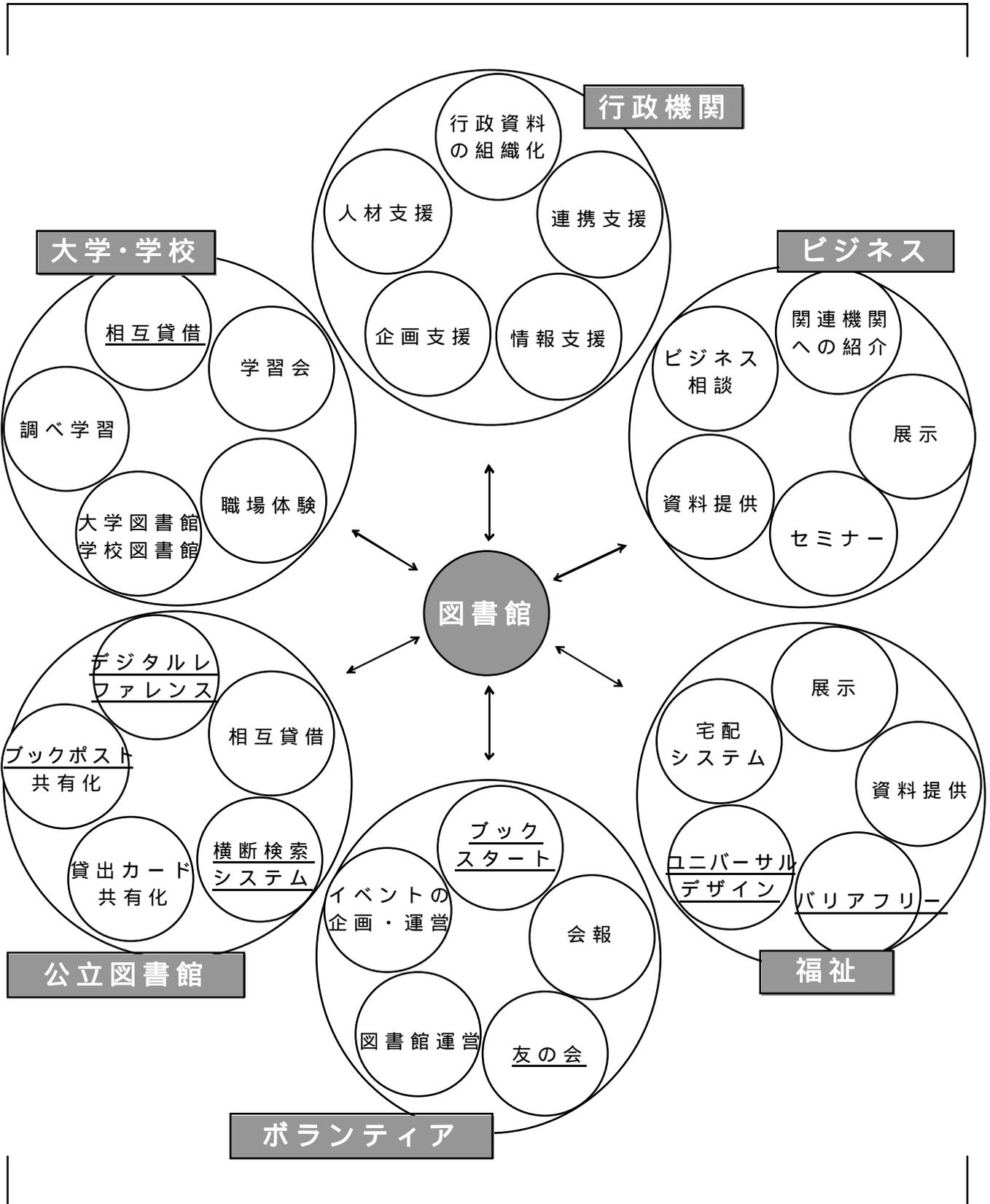
(イ) 物的資源の活用とは、

- ・大学図書館や学校図書館等でも貸出・返却ができるようにします。
- ・コンビニエンスストアでも貸出・返却ができるようにします。

(ウ) 情報資源の活用とは、

- ・近隣の公立図書館や大学図書館と蔵書を共有します。
- ・地域情報，ボランティア等の活動情報を集約し提供します。

【新中央図書館の情報ネットワーク】



【具体的な連携先と内容】

【公立図書館との連携】

県立図書館や国立国会図書館，近隣の図書館等との連携で市民がストレス無く，多様な資料を利用できるように，図書館としてのサービス基盤の強化を図ります。

【大学図書館・学校図書館との連携】

教育現場でいつでも本を活用できるように，全面的にバックアップします。また，大学との相互貸借や人的交流により専門的な分野の協力体制を確立し，図書館網としての充実を図ります。

【福祉団体との連携】

医療・介護等に関する資料・情報や健康増進等に関する資料・情報を提供します。また，福祉団体と連携を図り，高齢者施設や入院患者等に対するサービスを実施します。

【ビジネス関連機関との連携】

ビジネスに係る多様な市民ニーズに対して，その要望に応えられるような資料収集及び環境整備を行います。ビジネス支援を単独で行うのではなく，柏市の産学官連携の枠組みを有効に活用していきます。

【行政機関との連携】

行政事務や政策立案に必要な資料を積極的に収集し，レファレンス質問に回答し，求められた資料を提供することにより，柏市の行政サービスを情報面で支援していきます。

【ボランティアとの連携】

常に新鮮な図書館サービスを市民に展開するため，市民参加の機会を積極的に取り入れ，地域に根づいたきめ細やかなサービスを実施します。

ウ

**「分館」を
つなぐ**

新中央図書館と分館を「つなぐ」

- 新しい図書館網の情報拠点 -

（ 16 の分館は、柏市の貴重な財産として維持していきます ）

利用層や地域特性にあった図書館サービスを提供していくためには、新中央図書館と16の分館を合わせた、柏市全体としての望ましい機能と役割分担を検討していく必要があります。

16の分館は、柏市の図書館事業の特徴であり、貴重な財産として維持していきます。新中央図書館がさらに具体化していくなかで、分館のあり方について検証を行い、柏市の図書館網の充実を図っていきます。

(7) 新中央図書館

柏市の図書館網の頭脳としての機能を担い、分館をバックアップします。

- ・市民の課題解決について支援する拠点とします。
- ・各関係機関との連携で、多様な情報資料の提供拠点とします。
- ・各イベント等の事業の企画・立案拠点とします。
- ・ボランティアの育成拠点とします。

(1) 分館

地域における図書館サービス提供の最前線基地としての機能を担います。

- ・市民の課題を把握します。
- ・関係機関との連絡を密にし、地域ニーズに合った資料を提供します。
- ・各イベント等の事業を実施します。
- ・ボランティアの活動拠点とします。
- ・子ども図書館（平成20年度開館予定）と連携します。

(3) 新中央図書館の機能

ア 利用者別機能の整理

柏市には，生活圏域の中で身近に利用できる16の分館があり，図書館サービスが気軽に受けられる環境となっています。

また，柏市には日常的に，通勤・通学，文化・スポーツ活動，観光・レクリエーション，買い物，環境活動，ビジネス，研究等，様々な目的をもって，市外から訪れ活動する数多くの人々がいます。そうしたあらゆる人々に図書館サービスを展開します。

- 具体的な利用層 -

(ア) 児童層（おおむね小学生以下を想定）

未来を担う子どもたちの豊かな感性や想像力を育みます。

(イ) 青少年層（おおむね中学生以上を想定）

調べ学習等で積極的に利用できるよう，活字に関心を持たせます。

(ウ) 社会人層

自己学習や調査・研究に加え，交流を通じて，豊かな暮らしにつなげます。

大活字本，点字資料，録音資料等きめ細やかな図書館サービスを図り，また行きたいと思うような環境につなげます。

活動の成果発表や様々なイベントへの企画立案段階からの参加や地域情報，郷土情報を語ってくれる「かたりべ」として，様々な図書館で開催する活動への参加につなげます。

親子がふれあい，語り合い，きずなをより一層深めることができるように，地域みんなが安心して「時間を共有することができる」しくみづくりをめざします。

(エ) 外国人層

外国人等に対するサービスに力を入れます。

イ 目的別機能の整理

新中央図書館は、人的資源の活用によるレファレンス機能の充実、物的資源の活用による利便性の充実、情報資源の活用による提供資料の充実を図り、下記の4つのポイントを核にし、サービスを展開します。

(ア) 生活支援・地域情報

市民の生活に密着した、新鮮な情報を手にできる機能

- ・ 郷土資料，地域資料，行政資料の情報を発信します。
- ・ 健康・医療・福祉・子育て等の身近な情報を提供します。
- ・ 他の施設との連携・協力関係を強化し資料の充実を図ります。

(イ) 情報化

だれもがすばやく課題解決のきっかけをつかめる機能

- ・ インターネットや携帯電話による検索・予約ができます。
- ・ ホームページを利用した多様な情報発信をします。
- ・ 図書館活動のP Rのための館内I T化をします。
- ・ 専門職員による高度なレファレンスサービスを行います。

(ウ) 学習・体験・遊び

本や情報を通じ、気づき・学び・考え・行動できる機能

- ・ 展示・イベント等の行事を開催します。
- ・ グループでの読書や談話の場を設定します。
- ・ サークル活動ができる場を設定します。

(エ) 交流

ふれあいの中で、豊かな双方向の対話が生まれる機能

- ・ 新たな発見・出会いを創出する成果発表の場を設定します。
- ・ 世代を超えた人々のふれあいの場を設定します。
- ・ 運営等にも市民が積極的に参加できるようにワークショップやまつりを開催します。

5 施設活動の基本的な考え方

(1) 施設活動の基本方針

新中央図書館を利用するあらゆる市民は、様々なニーズがあります。それらに対し、幅広い情報、専門的な情報、多様な活動を提供し、応えることが図書館の使命です。

また、より多くの市民に利用していただくために、図書館の多様な機能の広報を図ることは重要です。

そこで、利用者の視点に立った施設活動方針、サービス内容を策定することが必要になってきます。来館者数の把握、顧客満足度の調査等を行い、利用者の声を常に施設活動に反映させることで、効率的な図書館事業を展開していきます。

利用者の声を常に反映させる

現在、柏市における財政状況は非常に厳しい状態にあります。効率的かつ効果的な図書館事業の展開が必須であるとともに、新中央図書館として、新たな収入源を模索、検討していきます。

ア

積極的な 広報

ホームページや広報紙、図書館イベント等を開催することにより、図書館の多様な機能、活動を積極的に広報及び情報公開を行います。また、整備段階の情報に関しても公開していきます。

イ

顧客 満足度

来館者、利用者に対し、ご意見箱の設置やアンケートによる意識調査、動線等の調査により、利用者の声を反映させ顧客満足度を常に意識します。

ウ

新たな 収入源

ホームページのバナーや玄関マット等の広告をはじめ様々な可能性を検討し、新たな収入源を模索します。

(2) 新中央図書館のサービス

新中央図書館においては、図書館サービスが受けられる時間の延長や来館が困難な市民への対応等利便性の拡大を進めていきます。また、市民をもてなす図書館職員の教育・研修を徹底し、図書の魅力を十分に引き出すためのスキルをアップさせ、あらゆる市民が快適に利用できるようにしていきます。

【閲覧・貸出サービス】

- ・ 専門書、郷土資料、デジタル資料等幅広い資料を収集・保存・提供します。
- ・ わかりやすく排架し、利用者が本に興味を持てる工夫をします。
- ・ 年齢や目的に応じた多様な閲覧スペースを設けます。
- ・ 貸出手続の効率化を図ります。

【予約・リクエストサービス】

- ・ 柏市の図書館網全体を通して、市民のニーズにあった資料の把握に努めます。
- ・ 他施設との連携による資料の提供を行います。
- ・ インターネットによるサービスを展開します。

【レファレンスサービス】

- ・ 市民の多様なニーズに応えるため、職員の専門性を高め、メール、電話等でも対応できるサービスを充実させます。
- ・ 関係機関、専門家等への照会・紹介を行います。
- ・ 事例をデータベース化し、閲覧できるようにします。

【読書案内サービス】

- ・ 新着図書やテーマごと、年齢ごとのブックリストを作成します。
- ・ 図書に関する情報をホームページやメールマガジンにより発信します。
- ・ 図書館の利用に関すること、各種サービスに関すること等、気

軽に相談に応じます。

【アウトリーチサービス】

- ・来館が困難な市民には，郵送によるサービスを行います。
- ・コンビニ等でも容易に受取や返却ができるようにします。

【地域情報提供サービス】

- ・健康・医療・福祉・子育て・ビジネス等の生活に密着した情報を提供します。
- ・地域の市民ボランティアの情報を集約し，提供していきます。

【複写サービス】

- ・利用者の求めに応じ調査研究のための資料の一部を複写します。

【マイブックサービス】

- ・活動の成果等を利用者オリジナルの本として作成することができるようになります。

【イベント・講座】

- ・読書会，展示会，シンポジウム，ワークショップ等を積極的に行います。
- ・市民の情報リテラシー（情報を活用する能力）の向上について支援します。
- ・子どもたちが集まるところに，おはなし会等のサービスが受けられるよう支援します。

(3) 資料計画（分類・蔵書数）

ア 資料の基本方針

市民のニーズにあった資料の収集、継続的な新規資料の収集、中長期的な視点にたった収集・保存・蔵書計画等、新しい図書館サービスの根本となる資料・情報の充実を図ります。

(ア) 一般書や雑誌等の印刷資料とインターネットやデータベース等の非印刷資料とを組み合わせた豊富な資料を提供します。

(イ) 新たな収集方針・選定基準を定め、資料の収集を行うとともに、図書資料の選定に関する年度計画に基づき、系統的・持続的に資料の収集・提供をします。

(ウ) 資料選定を新中央図書館に一元化することにより、分館を含め、バランスの良い、効率的な資料収集をめざします。

(エ) 分館をはじめ、市内の学校図書館や大学図書館、周辺の公立図書館や関連機関との密接な連携・協力を前提とし、効率的資料収集・提供をめざします。

(オ) AV資料等は、柏市の文化・歴史や行政資料等の地域性を重視した資料や障害者用等の収集・提供をします。

イ 資料の想定規模

新中央図書館の規模の設定にあたっては、将来人口増加分も加味し、約425,000人を想定人口として設定します。

(ア) 図書館専有延床面積 7,000㎡～8,000㎡

(イ) 職員数（臨時職員含む） 38人

(ウ) 蔵書冊数 570,000冊

(エ) 開架冊数 370,000冊

ウ 一般的な基準となる規模

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」による基準（平成17年4月1日現在）となる規模は、以下のとおりです。

(ア) 図書館専有延床面積 10,140㎡

(イ) 職員数（臨時職員含む） 34人

(ウ) 蔵書冊数 569,507冊

(エ) 開架冊数 366,270冊

6 施設計画の基本的な考え方

(1) 施設全体の整備方針

- 柏市の「きのう」「きょう」「あした」と市民をつなぐ -

38万人の市民が生活する柏市の多様な魅力を発展させ、将来都市像実現のための情報拠点として、整備していくことが必要です。

そして、東葛飾地域のあらゆる情報をリードし、世代や市域を越えて多くの人々が資料・情報に触れ、発見し、感動し、継承し、新たな情報文化の発展に寄与していくことができる施設となるように整備します。

ア 安全かつ快適に利用できる施設計画とします。

- ・耐震性や防災，自然環境に配慮した施設とします。
- ・館内環境（温度，湿度，照明，採光，音等）が快適に保たれた施設とします。
- ・防犯対策が十分に確保された施設とします。
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設とします。

イ 市民が使いやすく交流できる施設計画とします。

- ・ゆったりとした開架・閲覧スペースを確保します。
- ・分かりやすい排架とします。
- ・サイン・表示を適切に配置します。
- ・市民の交流の場となるよう配慮します。

ウ フレキシビリティがあり市民に長く利用される施設計画とします。

- ・多様な用途に応じたレイアウトができるスペースを確保します。
- ・将来の変化を考慮したレイアウトとします。
- ・利用者と職員の動線に配慮します。
- ・維持管理しやすい施設とします。

(2) 必要諸室の構成

新中央図書館で必要とされる基本的な諸室の考え方は、以下のとおりです。

ア 開架部門

(ア) 一般図書スペース

- ・ 図書館全体が見渡せるわかりやすい配置とします。
- ・ 児童図書スペースとのつながりが良い位置とします。
- ・ 閲覧コーナーは、誰もが自由に利用でき、持ち込みパソコンを利用できるよう情報化に対応する等、目的に応じたレイアウトができるようにします。
- ・ 書架間隔は、車椅子と人がすれ違うことのできる幅以上を確保し、スペースの見通しを考慮した書架のレイアウト及び高さとします。

(イ) 児童図書スペース

- ・ 一般図書スペースとの連続性を考慮した配置とし、他のスペースへの動線と交差せずにアプローチできるように配慮します。様々な形態の書架や読書席を設け、楽しい雰囲気づくりを行います。
- ・ おはなし会や紙芝居、親子での読み聞かせ等に利用する「おはなしのへや」を設けます。
- ・ 児童専用便所、おむつ替えや授乳のための「あかちゃんのへや」を設けます。
- ・ 子育て支援の情報、親子間の交流の場として使用できるようにします。

(ウ) 青少年図書スペース

- ・ 小学校高学年を対象とした資料コーナーを設けます。
- ・ 一般図書と児童図書スペースに連続する位置に設けます。
- ・ 若い世代が交流できるグループ学習室を設けます。

(エ) 新聞・雑誌スペース

-
- ・新聞雑誌の最新号及びバックナンバーを排架します。
 - ・一般の開架スペースとの往来が容易で，静かな閲覧コーナーに隣接せず，くつろいだ雰囲気を読むことのできるゆとりあるスペースとします。
- (オ) 地域行政資料スペース
- ・柏市の郷土作家の作品，郷土資料，地域情報，行政資料等を集めたコーナーを一般開架スペースに連続して設けます。
 - ・柏市の地域情報の受発信機能の役割を担います。
- (カ) ビジネス支援コーナー
- ・ビジネス関連の図書や資料をはじめ，関連機関の紹介やパンフレットの配布を行います。
 - ・必要に応じて，ビジネス関連専門のレファレンスコーナーを設置し，関連資料や関連機関の紹介を行います。
- (キ) 障害者資料コーナー
- ・大活字本，点字資料，録音資料等の資料を提供します。
 - ・サービスカウンター付近に配置し，対面朗読や録音可能な朗読サービス室をあわせて設けます。
- (ク) 視聴覚資料コーナー
- ・視聴覚資料の排架及び視聴機器を設けるとともに，視聴のための席を設けます。なお，視聴覚資料については，障害者のための資料，子育て支援のための資料，郷土資料にかぎります。
- (ケ) パソコンコーナー
- ・インターネット接続が可能な利用者用のパソコンを配置します。
 - ・商用データベースの閲覧が行えるパソコンを配置します。

イ サービス部門

- (ア) サービスカウンター
- ・図書館全体の利用案内を行います。

-
- ・利用者登録や貸出・返却処理，読書案内，リクエストの受付等を行います。
 - ・エントランスと一般開架スペースが見通せ，利用者にとって分かりやすい場所に配置します。
 - ・ブック・ディテクション・システム（BDS）設置等，図書，資料の管理に配慮します。

(イ) レファレンスカウンター

- ・相談用のカウンターを設け，図書の魅力を十分に引き出す専門職員が利用者からの質問や相談に応じます。
- ・利用者が見つけやすく，職員にとっても案内をしやすい場所に配置します。

(ウ) 資料情報コーナー

- ・蔵書検索端末（OPAC等），冊子形態目録や関連書籍資料等による検索コーナーを設けます。
- ・検索端末は，開架部門内の適当な場所へ分散して配置し，利用者サービスの充実を図ります。

ウ 管理運営部門

(ア) 書庫

- ・資料の利用頻度や形態に合わせ，機能的な運営が可能な方法で保存します。
- ・貴重本資料の収蔵室等を設けます。

(イ) 館長・応接室

- ・館長事務作業の他，図書館利用者との自由な交流，来館者への応接室として利用する。

(ウ) 事務作業室

- ・図書館の事務管理の他，資料の荷解や配送，選書や整理等を行う場所を設けます。
- ・隣接して，遮音性を確保した印刷製本室，セキュリティーに配慮したコンピュータ室等を必要に応じて設けます。

(I) スタッフラウンジ（兼会議室・救護室）

- ・職員の休憩や食事及び会議の場として設けます。

-
- ・利用者等の緊急の救護の場としても使用します。

(オ) 派遣者詰所

- ・施設管理や清掃等の外部委託者の必要な諸室として設けます。

エ 市民交流部門

(ア) 集会・研修コーナー

- ・研修や会議・集会等の多目的な利用が可能な部屋を設けます。
- ・目的に合せた利用ができるよう大・中・小の規模の異なる部屋を設けます。

(イ) 交流・展示コーナー

- ・イベントや市民の作品等を発表，展示できるスペースを設けます。
- ・来館者が談話や休憩ができる雰囲気喫茶・休憩スペースを設け，市民の交流を促します。

(ウ) 市民コーナー

- ・ボランティア等の活動拠点として，打合せや作業，活動ができるスペースを設けます。
- ・市民から寄せられた地域情報の受発信を行います。

オ 共用部門

(ア) エントランスホール

- ・図書館への導入部として，利用者が入りやすく，明るく開放的な空間とします。

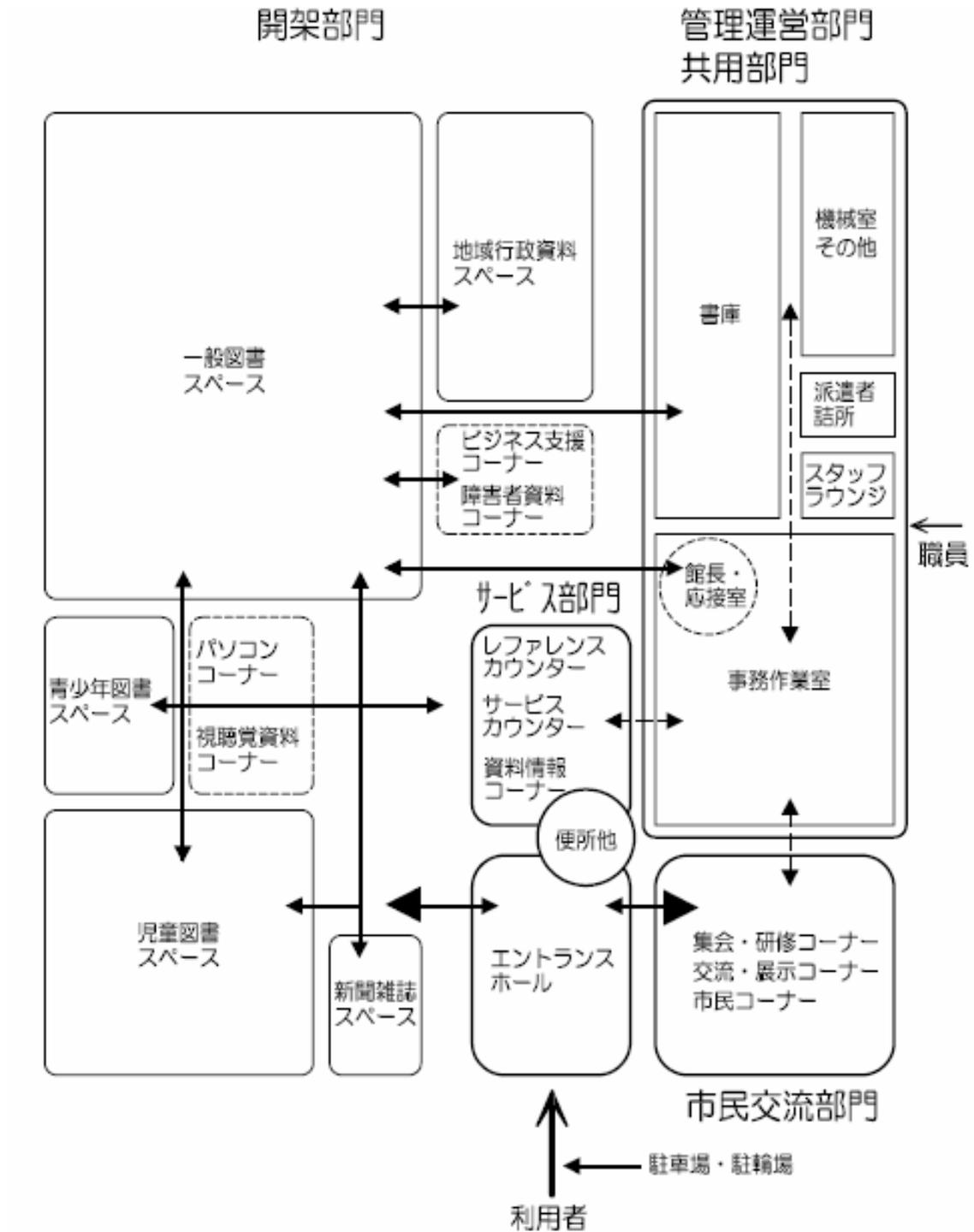
(イ) 便所

- ・ユニバーサルデザインに配慮し，多目的便所も合わせて設けます。

(ウ) 機械室・その他

- ・快適に利用できるよう、スロープやエレベーターを適宜設けます。

【機能相関図】



7 立地の基本的な考え方

(1) 立地適地の抽出条件

ア 市民ニーズに基づく抽出

- 利便性重視の中心市街地 -

柏市では、新中央図書館の整備にあたって二度にわたり市民にアンケート調査を実施しました。その中で、「駅前等交通の便がよいところ」という意見が最も多く、「商店に近接するところ」を加えると全体の70%を越える結果となりました。

また、現在図書館をあまり利用していない理由としては、「立地場所が不便だから」という意見が最も多く寄せられました。

イ コンセプトに基づく抽出

- 図書館ネットワークの中心拠点 -

新中央図書館では、ボランティアとの連携、大学との連携、市内16分館をはじめ、周辺の公立図書館等との連携を行っていきます。そのような活動を効果的に行える図書館ネットワークの中心拠点としての立地を検討します。

さらに、新中央図書館の図書館専有延床面積は7,000㎡から8,000㎡程度を想定し、より多くの利用者がゆったりと利用できる立地についても考慮します。

ウ まちづくりに基づく抽出

- 中央ゾーン・柏の葉キャンパス駅周辺 -

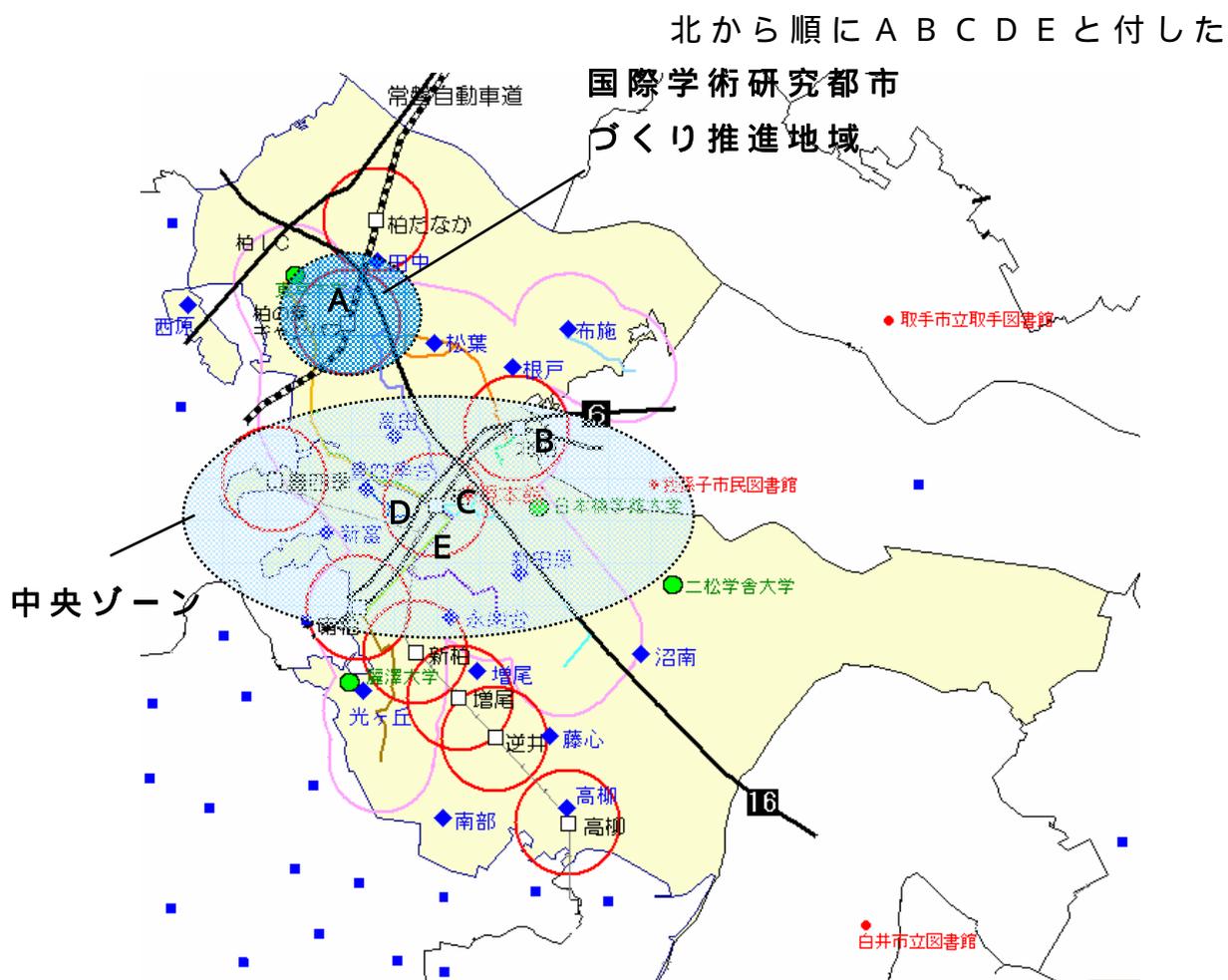
柏市第四次総合計画中期基本計画において、商業・業務集積地としての機能を確保増進，文化機能等高次都市型サービスの充実を図る中央ゾーンと，学術・産業拠点や，水と緑の空間とが調和しつつ，活力と潤いがある多様な都市機能が集積する国際的な拠点都市をめざす柏の葉キャンパス駅周辺における立地候補地を抽出し，子どもから高齢者，障害者等のあらゆる市民が安全に利用できるよう考慮します。

以上の抽出条件をふまえ，市の所有している土地であることも含めて土地又は床の取得について，現実的な見通しが立てられることで抽出します。

最終的に立地候補地を選定する上では，広く情報を公開し透明性を確保し，市民と共通理解の醸成を図ります。

(2) 立地候補地

	候補地	地番	地積 (m ²)
A	柏北部中央地区	若柴字大割 2 2 7 番 6 他	1 5 , 6 6 7 . 0 0
B	北柏駅北口区画整理事業	根戸字上屋敷 1 5 9 0 番 5 他	4 , 1 0 0 . 9 9 (区画整理後の図書館立 地候補地部分)
C	現柏市立図書館本館跡地	柏 5 丁目 2 0 6 番 1 0	2 , 2 3 4 . 0 7
D	柏市立柏中学校内	明原 4 丁目 4 1 番 1	4 0 , 4 6 9 . 0 0 (うち、図書館立地候補 地部分は 7 , 1 8 9 . 8)
E	柏駅東口 D 街区第一地区 市街地再開発事業	中央町 8 1 7 番 1 0 他	6 , 9 5 6 . 0 0 (D , E 街区敷地面積)



(3) 立地適地の比較検討

ア 立地適地の指標

図書館法に基づいた基準をふまえ，新中央図書館の立地選定についての指標を作成しました。

図書館法に基づいた立地選定の基準	
<p>図書館法第18条の規定に基づき定められた公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準において，公立図書館の設置にあたっては，サービス対象地域の以下の項目を勘案し検討をすることが努力義務として課せられています。</p> <p>人口分布と人口構成</p> <p>面積</p> <p>地形</p> <p>交通網等</p>	



新中央図書館の立地選定に係る指標	
人口	図書館は基本的には市民に来館してもらい，サービスを提供する施設であるため，多くの利用者が見込める立地が望ましい。
敷地	利用者のニーズに応えるためには，一定規模の敷地で設計の自由度が高い敷地を確保できることが望ましい。
交通アクセス	高齢者等を含めたより多くの人に利用してもらうためには，交通至便な地域に立地することが望ましい。
周辺環境	やすらぎの場として緑が多くくつろげる場所が望ましい。また，日常的に利用しやすい場所への立地が望ましい。
都市計画等の位置づけ	柏市第四次総合計画上のまちづくり方針に即していることが望ましい。
用地の取得難易度	土地の取得が容易で，他事業との関連でスケジュールに余裕があることが望ましい。
財政負担	用地費，建築工事費や補助金の可能性等，事業費負担が少ない方が望ましい。
連携	図書館ネットワークの中心を担うことから，他施設と連携しやすい立地が望ましい。

イ 立地適地の整理

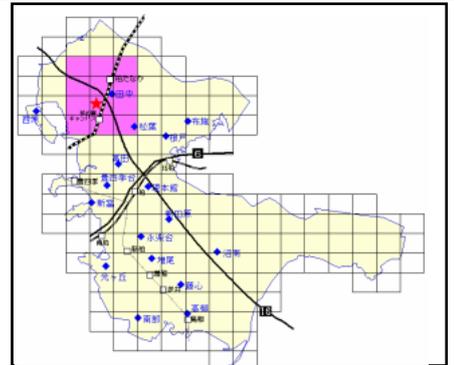
(A) 柏北部中央地区

人口 多くの人口が見込まれる立地が望ましい

人口合計：58,327人

(夜間人口：31,760人 / 昼間人口：26,567人)

現在，メッシュ内人口は最下位であるが区画整理中であるため，今後，人口の増加が見込まれる。



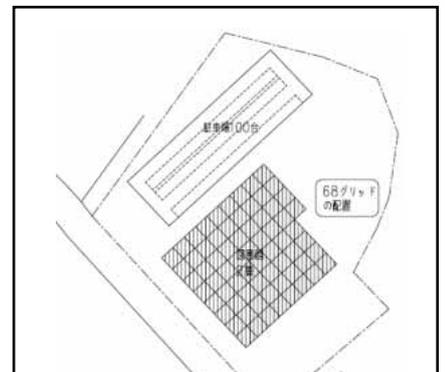
平成12年度国勢調査
平成13年度事業所統計調査

敷地 一定規模確保できる立地が望ましい
(延床面積7,000㎡確保 / 駐車場50台確保)
設計の自由度が高い敷地を確保できることが望ましい

【建ぺい率 / 容積率：60 / 200】

敷地面積：15,667㎡ (複合型図書館の建設が可能)
最大延床面積：31,200㎡ 最大建築面積：9,360㎡

候補地はグランドピアノ型の形状であるが，十分な広さがあり，整形での建築が可能である。駐車場は50台確保可能。



交通アクセス 交通至便な地域への立地が望ましい
(最寄駅，バス停からの距離を考慮)

最寄駅：柏の葉キャンパス駅から500m

最寄バス停：「駅入口」から約300m

(東武バス)

最寄り駅から徒歩で10分以内である。また，利用可能なバス停は他にも2つあり，合計7系統が利用可能だが，バスの本数が少なく，他の候補地に比べ待ち時間が長くなっている。



周辺環境 緑が多くくつろげる立地が望ましい
(候補地に隣接する緑が存在し，敷地から緑を感じることができる)
日常的に利用しやすい場所への立地が望ましい
(相互立ち寄りが可能な都市公園や大型商業施設が1km圏内に存在する)

隣接する自然：調整池

回遊性：都市公園 4箇所
(合計面積：435,500㎡)

商業施設 1箇所 (ららぽーと柏の葉)

調整池に隣接し，「水」を感じられる。また，周辺には都市公園や商業施設が立地しており，くつろぎと日常利用の利便性を兼ね備えた立地となっている。



都市計画等の位置づけ

柏市のまちづくりの方針に即していることが望ましい
(第四次総合計画等との地区整備方針に適合するかを考慮)

【区画整理事業の推進】

都市計画事業柏北部中央地区 一体型特定土地区画整理事業

【国際キャンパスタウン構想】

産学官連携による柏の葉エリアを中心とした、「環境・健康・交流・創造」の国際学術研究都市の形成をめざす。

【緑園都市構想】(北部ゾーンの基本理念)

都市の活力と環境の調和をめざす“まち”

用地取得の難易度

土地の取得が容易であることが望ましい

所有者：柏市土地開発公社

用地取得費：2,917百万円

【算定式】 $\frac{97,108 \text{円/m}^2 \times 29,587 \text{m}^2}{\text{保有簿価による単価}} \times \frac{1.015}{\text{従前地 事務費}}$

土地開発公社保有簿価による単価は、平成20年2月末(見込み)のものとする。
従前地 29,587 m² 仮換地 15,667 m² (=敷地面積)。

財政負担

事業費の負担が少ない方が望ましい

事業費：7,530百万円～7,984百万円

用地取得費，建築工事費，家具調度，システム初期整備等の事業費

補助金等取得可能性：まちづくり交付金，合併特例債

すでに土地区画整理事業補助金を取得している。

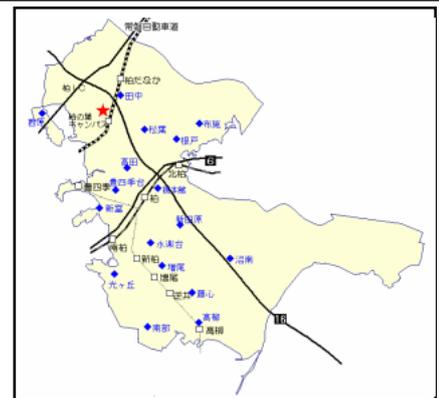
連携

他の施設との連携がしやすい場所への立地が望ましい

(柏市図書館網の中心的位置にある)

分館からの距離：112km

田中	: 1.7(km)	新富	: 5.9(km)	永楽台	: 8.5(km)
松葉	: 2.2(km)	高柳	: 12.2(km)	根戸	: 5.4(km)
豊四季台	: 5.4(km)	南部	: 12.5(km)	布施	: 5.6(km)
西原	: 3.7(km)	藤心	: 11.6(km)	沼南	: 8.9(km)
増尾	: 9.0(km)	高田	: 3.3(km)		
光ヶ丘	: 9.3(km)	新田原	: 6.8(km)		



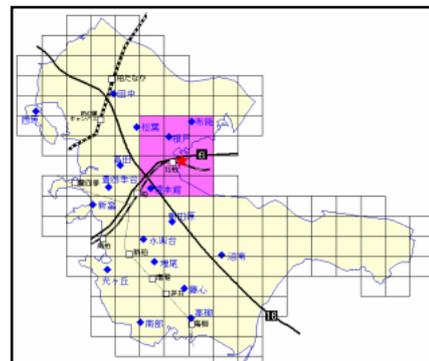
(B) 北柏駅北口区画整理事業

人口 多くの人口が見込まれる立地が望ましい

人口合計：130,704人

(夜間人口：72,950人 / 昼間人口：57,754人)

現在，区画整理中である。今後，人口の増加が多少見込まれる。



平成12年度国勢調査
平成13年度事業所統計調査

敷地

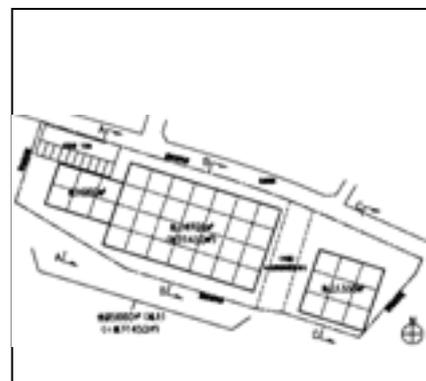
一定規模確保できる立地が望ましい
(延床面積7,000㎡確保 / 駐車場50台確保)
設計の自由度が高い敷地を確保できることが望ましい

【建ぺい率 / 容積率：60 / 200】

敷地面積：4,100.99㎡ (単独型図書館の建設)

最大延床面積：8,200㎡ 最大建築面積：2,460㎡

形状は東西に長い台形である。高架によって分断されている部分があり，7,000㎡の延床面積の確保には工夫が必要である。駐車場は50台確保可能(一部地下)。



交通アクセス

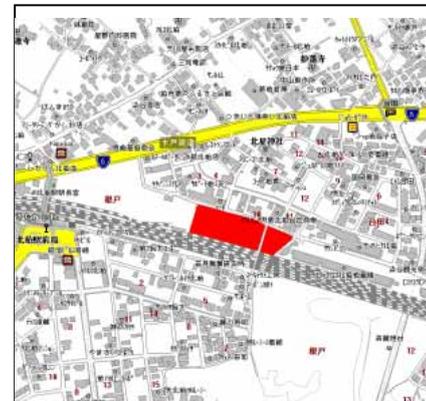
交通至便な地域への立地が望ましい
(最寄駅，バス停からの距離を考慮)

最寄駅：北柏駅から380m

最寄バス停：「北柏駅入口」から約360m

(東武バス，関東鉄道，阪東自動車)

最寄り駅から徒歩で10分以内である。区画整理後は駅からの直接アプローチが可能になる予定。他に北柏駅のバス停も徒歩圏内であり，バスの運行も8系統と比較的多く待ち時間の短い路線もある。



周辺環境

緑が多くくつろげる立地が望ましい
(候補地に隣接する緑が存在し，敷地から緑を感じることができる)
日常的に利用しやすい場所への立地が望ましい
(相互立ち寄りが可能な都市公園や大型商業施設が1km圏内に存在する)

隣接する自然：特になし

回遊性：都市公園 3箇所

(合計面積：82,000㎡)

商業施設 0箇所

周辺には都市公園が立地しており，くつろぎの空間を備えた立地となっている。徒歩圏内に大型商業施設は立地していない。



都市計画等の位置づけ

柏市のまちづくりの方針に即していることが望ましい
(第四次総合計画等との地区整備方針に適合するかを考慮)

【北柏駅北口土地区画整理事業】

本事業により駅前広場をはじめとする道路，公園，下水道の整備を行うとともに，併せて宅地の整備を行い，柏市の東部地域の拠点として，駅前という立地条件に相応しい健全で秩序ある市街地を形成することを目的とする。

【ライブタウン構想】

土地区画整理事業により，北口駅前広場や道路・公園等の整備，宅地の整備を進めるとともに生活支援機能の導入を図る。

用地取得の難易度

土地の取得が容易であることが望ましい

所有者：柏市土地開発公社，柏市

用地取得費：1,242百万円

【算定式】 $\frac{163,462 \text{ 円/m}^2 \times 7,481.71 \text{ m}^2}{\text{保有簿価による単価}} \times \frac{1.015}{\text{従前地}} \times \text{事務費}$

土地開発公社保有簿価による単価は，平成18年9月末現在のものである。
従前地7,481.71m² 仮換地4,100.99m²(=敷地面積)。

財政負担

事業費の負担が少ない方が望ましい

事業費：5,855百万円～6,309百万円

用地取得費，建築工事費，家具調度，システム初期整備等の事業費

補助金等取得可能性：まちづくり交付金，合併特例債

すでに土地区画整理事業補助金を取得している。

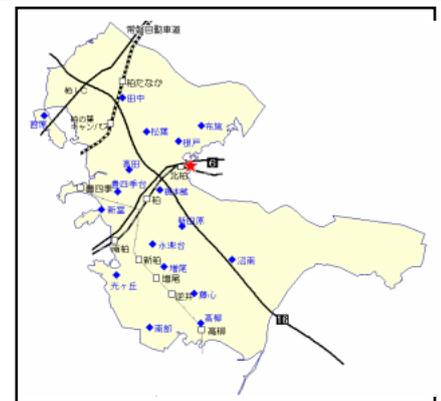
連携

他の施設との連携がしやすい場所への立地が望ましい

(柏市図書館網の中心的位置にある)

分館からの距離：97km

田中	: 5.3(km)	新富	: 4.8(km)	永楽台	: 6.1(km)
松葉	: 3.5(km)	高柳	: 10.0(km)	根戸	: 2.4(km)
豊四季台	: 3.6(km)	南部	: 10.4(km)	布施	: 2.6(km)
西原	: 9.1(km)	藤心	: 9.9(km)	沼南	: 6.6(km)
増尾	: 6.6(km)	高田	: 3.3(km)		
光ヶ丘	: 7.7(km)	新田原	: 5.2(km)		



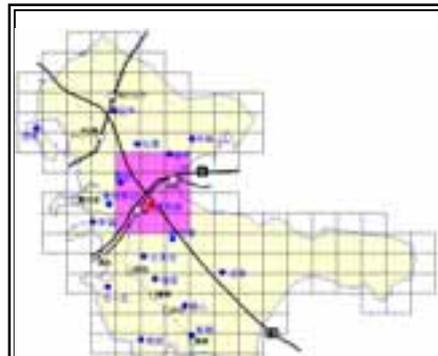
(C) 現柏市立図書館本館跡地

人口 多くの人口が見込まれる立地が望ましい

人口合計：182,725人

(夜間人口：92,998人 / 昼間人口：89,727人)

柏駅から比較的近い住宅街にあり人口も多い。



平成12年度国勢調査
平成13年度事業所統計調査

敷地

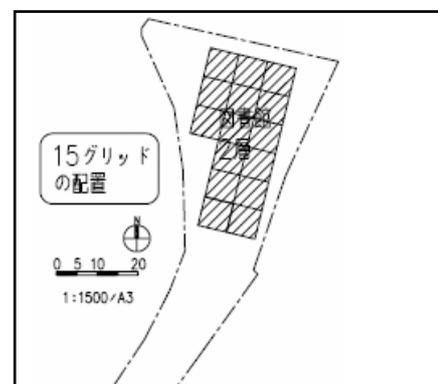
一定規模確保できる立地が望ましい
(延床面積7,000㎡確保 / 駐車場50台確保)
設計の自由度が高い敷地を確保することが望ましい

【建ぺい率 / 容積率：60 / 200】

敷地面積：2,234.07㎡ (単独型図書館の建設)

最大延床面積：4,468㎡ 最大建築面積：1,340㎡

ほぼ、三角形の形状をしている。敷地面積の都合上(日影等の規制による)7,000㎡の延床面積及び敷地内に駐車場を確保することは困難である。



交通アクセス

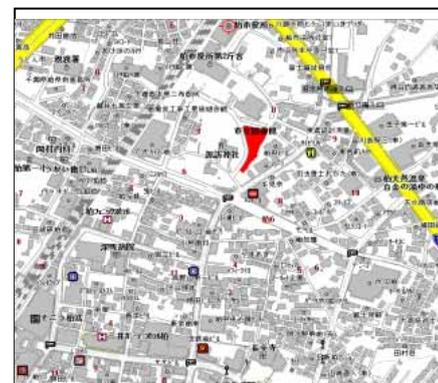
交通至便な地域への立地が望ましい
(最寄駅、バス停からの距離を考慮)

最寄駅：柏駅から890m

最寄バス停：「柏法務局入口」から約300m

(阪東自動車)

最寄り駅から徒歩で10分以上かかる。バスの運行系統数は3種類だが、待ち時間は他の候補地に比べて全体的に短くなっている。



周辺環境

緑が多くくつろげる立地が望ましい
(候補地に隣接する緑が存在し、敷地から緑を感じることができる)
日常的に利用しやすい場所への立地が望ましい
(相互立ち寄りが可能な都市公園や大型商業施設が1km圏内に存在する)

隣接する自然：諏訪神社の森

回遊性：都市公園 5箇所

(合計面積：117,000㎡)

商業施設 3箇所

(イトーヨーカ堂、かねたや家具店、島忠、そごう)



諏訪神社の森に隣接し、緑を感じられる。また、周辺には都市公園や商業施設が複数立地しており、くつろぎと日常利用の利便性を兼ね備えている。

都市計画等の位置づけ

柏市のまちづくりの方針に即していることが望ましい
(第四次総合計画等との地区整備方針に適合するかを考慮)

【ライブタウン構想】

商業，業務，娯楽，文化，生活，情報等の複合施設（柏駅周辺地区の位置付け）
文化：ときめき，交流：ふれあい，安らぎ：やすらぎ（中央ゾーンの基本理念）

用地取得の難易度

土地の取得が容易であることが望ましい

所有者：柏市

用地費：373百万円（参考価格）

【算定式】 $\frac{133,333 \text{ 円/m}^2 \times 2,234.07 \text{ m}^2 \times 1.25}{}$

路線価（3年平均）

敷地面積

地価公示価格割戻率

路線価は地価公示価格の80%を目途としている。奥行き価格補正等は考慮しないものとする。

財政負担

事業費の負担が少ない方が望ましい

事業費：2,548百万円（延床面積2,300㎡にて算定）

用地費除く，建築工事費，家具調度，システム初期整備等の事業費

補助金等取得可能性：まちづくり交付金，合併特例債

連携

他の施設との連携がしやすい場所への立地が望ましい

（柏市図書館網の中心的位置にある）

分館からの距離：76km

田中	: 5.7(km)	新富	: 3.2(km)	永楽台	: 3.5(km)
松葉	: 4.1(km)	高柳	: 8.3(km)	根戸	: 3.2(km)
豊四季台	: 1.9(km)	南部	: 8.2(km)	布施	: 4.3(km)
西原	: 8.1(km)	藤心	: 6.5(km)	沼南	: 4.9(km)
増尾	: 4.5(km)	高田	: 2.2(km)		
光ヶ丘	: 4.8(km)	新田原	: 2.5(km)		



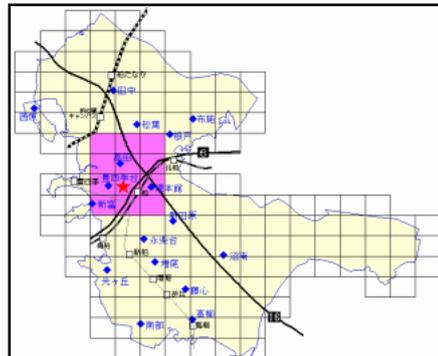
(D) 柏市立柏中学校校内

人口 多くの人口が見込まれる立地が望ましい

人口合計：190,932人

(夜間人口：97,218人 / 昼間人口：93,714人)

柏駅に近く、域内に団地も有しているため、特に夜間人口は多い。



平成12年度国勢調査
平成13年度事業所統計調査

敷地

一定規模確保できる立地が望ましい
(延床面積7,000㎡確保 / 駐車場50台確保)
設計の自由度が高い敷地を確保できることが望ましい

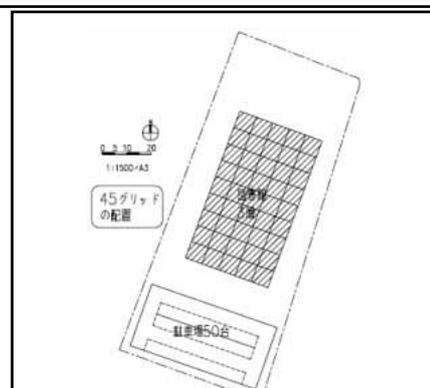
【建ぺい率 / 容積率：60 / 200】

敷地面積：40,469㎡ (複合型図書館の建設が可能)

(うち図書館立地候補地部分は、7,189.80㎡)

最大延床面積：14,378㎡ 最大建築面積：4,313㎡

候補地の拡大も可能であるため、延床面積7,000㎡の確保は十分可能である。また、長方形の敷地であり、整形での建築が可能であるため、設計の自由度が高い。駐車場は50台確保可能。



交通アクセス

交通至便な地域への立地が望ましい
(最寄駅、バス停からの距離を考慮)

最寄駅：柏駅から580m

最寄バス停：「中学校前」からすぐ

(東武バス)

最寄り駅から徒歩で10分以内である。バスの運行系統数は合計6系統で、発着数も多く待ち時間も比較的短い。



周辺環境

緑が多くくつろげる立地が望ましい
(候補地に隣接する緑が存在し、敷地から緑を感じることができる)

日常的に利用しやすい場所への立地が望ましい
(相互立ち寄りが可能な都市公園や大型商業施設が1km圏内に存在する)

隣接する自然：柏中学校校庭

回遊性：都市公園 2箇所

(合計面積：38,500㎡)

商業施設 1箇所

(高島屋)

中学校に隣接し、校庭の植栽に緑を感じられる。また、周辺には都市公園や商業施設が立地しており、くつろぎと日常利用の利便性を兼ね備えた立地となっている。



都市計画等の位置づけ

柏市のまちづくりの方針に即していることが望ましい
 (第四次総合計画等との地区整備方針に適合するかを考慮)

【ライブタウン構想】

柏中学校の多目的を考慮した施設整備を行い、あわせて生涯学習拠点づくりを進めます。

商業、業務、娯楽、文化、生活、情報等の複合施設(柏駅周辺地区の位置付け)
 文化：ときめき、交流：ふれあい、安らぎ：やすらぎ(中央ゾーンの基本理念)

用地取得の難易度

土地の取得が容易であることが望ましい

所有者：柏市

用地費：1,697百万円(参考価格)

$$\left[\frac{180,000 \text{円/m}^2}{\text{正面路線価}} + \left(\frac{176,666 \text{円/m}^2}{\text{側方路線価}} \times 0.05 \right) \right] \times \frac{7,189.8 \text{m}^2}{\text{敷地面積}} \times \frac{1.25}{\text{地価公示価格割戻率}}$$

路線価は地価公示価格の80%を目途としている。奥行き価格補正等は考慮しないものとする。

財政負担

事業費の負担が少ない方が望ましい

事業費：6,496百万円～6,950百万円

用地費除く、建築工事費、家具調度、システム初期整備等の事業費、

補助金等取得可能性：まちづくり交付金、合併特例債

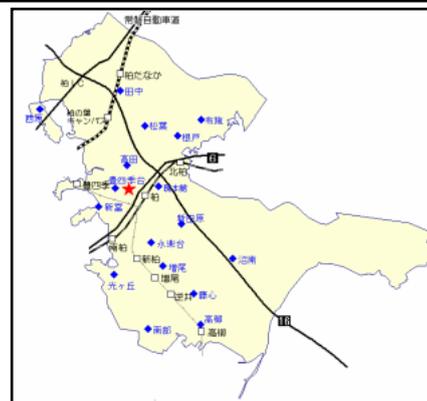
連携

他の施設との連携がしやすい場所への立地が望ましい

(柏市図書館網の中心的位置にある)

分館からの距離：81km

田中	: 6.2(km)	新富	: 2.5(km)	永楽台	: 4.0(km)
松葉	: 3.7(km)	高柳	: 8.6(km)	根戸	: 3.7(km)
豊四季台	: 0.6(km)	南部	: 9.2(km)	布施	: 5.5(km)
西原	: 7.5(km)	藤心	: 7.7(km)	沼南	: 6.4(km)
増尾	: 4.8(km)	高田	: 1.8(km)		
光ヶ丘	: 5.0(km)	新田原	: 3.1(km)		



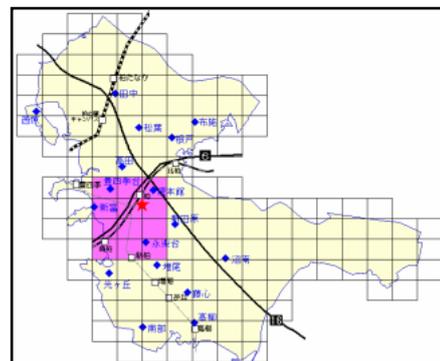
(E) 柏駅東口D街区第一地区市街地再開発事業

人口 多くの人口が見込まれる立地が望ましい

人口合計：226,409人

(夜間人口：106,267人 / 昼間人口：120,142人)

柏駅に近い繁華街を域内に有しており，人口が特に多い地域である。



平成12年度国勢調査
平成13年度事業所統計調査

敷地

一定規模確保できる立地が望ましい
(延床面積7,000㎡確保 / 駐車場50台確保)
設計の自由度が高い敷地を確保することが望ましい

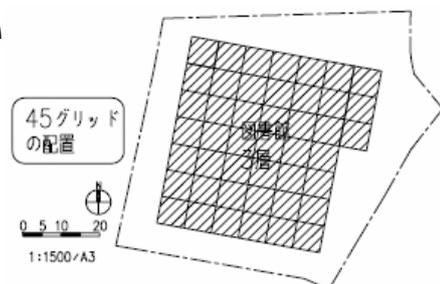
【建ぺい率 / 容積率：80 / 400】

敷地面積：6,956㎡ (複合型図書館の建設)

(うちD街区は，4,543㎡)

最大延床面積：18,172㎡ 最大建築面積：3,634㎡

市街地再開発によって建設されるビル内 (D街区) に延床面積7,000㎡程度の保留床取得が見込める。
駐車場は隣接するE街区に50台確保可能。



交通アクセス

交通至便な地域への立地が望ましい
(最寄駅，バス停からの距離を考慮)

最寄駅：柏駅から290m

最寄バス停：「柏駅入口」から約100m

(東武バス，阪東自動車)

5つの候補地のうち最寄り駅から最も近い。
また，雨天時に最寄駅からのアクセスの利便性も特徴である。



周辺環境

緑が多くくつろげる立地が望ましい
(候補地に隣接する緑が存在し，敷地から緑を感じることができる)
日常的に利用しやすい場所への立地が望ましい
(相互立ち寄りが可能な都市公園や大型商業施設が1km圏内に存在する)

隣接する自然：特になし

回遊性：都市公園 3箇所

(合計面積：90,500㎡)

商業施設 7箇所

(イトーヨーカ堂，長崎屋，丸井等)

周辺には商業施設が多数立地しており，日常利用の利便性を備えた立地となっている。



都市計画等の位置づけ

柏市のまちづくりの方針に即していることが望ましい
(第四次総合計画等との地区整備方針に適合するかを考慮)

【市街地再開発事業の推進】 都市再生緊急整備区域指定

柏駅東口に位置し、既存の商業集積を活用しながら土地の高度利用を図り、賑わいと活力に満ちたバラエティ豊かな商業ゾーンの形成を目的とします。

【ライブタウン構想】

商業、業務、娯楽、文化、生活、情報等の複合拠点(柏駅周辺地区の位置付け)
文化：ときめき、交流：ふれあい、安らぎ：やすらぎ(中央ゾーンの基本理念)

用地取得の難易度

土地の取得が容易であることが望ましい

所有者：柏駅東口D街区第一地区市街地再開発準備組合
床取得費：3,000百万円～3,300百万円

当該再開発準備組合にて想定している金額としている。

財政負担

事業費の負担が少ない方が望ましい

事業費：6,193百万円～6,683百万円

保留床取得費，内装工事費，家具調度，システム初期整備等の事業費

補助金等取得可能性：まちづくり交付金，合併特例債

中心市街地活性化基本計画を策定中である。

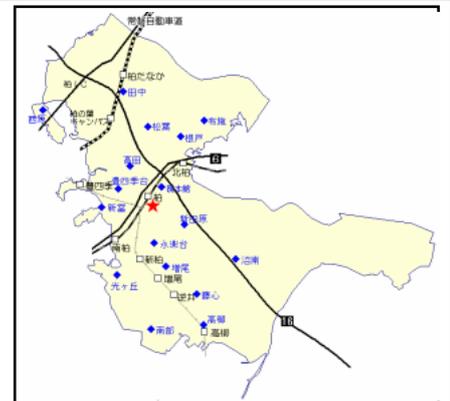
連携

他の施設との連携がしやすい場所への立地が望ましい

(柏市図書館網の中心的位置にある)

分館からの距離：77km

田中	: 6.3(km)	新富	: 2.2(km)	永楽台	: 3.6(km)
松葉	: 4.8(km)	高柳	: 8.9(km)	根戸	: 4.0(km)
豊四季台	: 1.8(km)	南部	: 7.6(km)	布施	: 5.9(km)
西原	: 8.8(km)	藤心	: 5.7(km)	沼南	: 5.9(km)
増尾	: 3.7(km)	高田	: 2.8(km)		
光ヶ丘	: 3.5(km)	新田原	: 1.8(km)		



(4) 新中央図書館整備に関する懸案事項

各候補地の懸案となる項目については、下記のとおりです。

A 柏北部中央地区

- ・約11,000㎡は市場駐車場として利用の予定もある。
- ・他の行政サービス施設等の複合利用についても検討の必要がある。

B 北柏駅北口区画整理事業

- ・国道6号南側区域における道路整備も含めた一体的な区画整理事業が進められている。
- ・新中央図書館の整備と計画期間との調整が必要である。

C 現柏市立図書館跡地

- ・敷地面積等の関係で、単独では新中央図書館としての機能等を担っていくことが難しい。他の施設で補完する機能や経費等について検討する必要がある。
- ・工事期間中（本館休館中）における図書館サービスの実施計画を検討する必要がある。

D 柏市立柏中学校内

- ・前提として、現体育館等の施設の移設が必要である。
- ・体育館等の施設について新たな計画を立てる必要がある。

E 柏駅東口D街区第一地区市街地再開発事業

- ・事業主体が再開発組合であるため、再開発事業のスケジュールとの調整が必要となる。
- ・地権者の合意形成について、現時点の基本計画レベルではなされているが、今後各地権者の具体的な権利変換計画が示された段階で全員の合意までに時間を要する可能性がある。
- ・図書館法による図書館が整備された場合、周囲50m以内が風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例（千葉県条例）による制限区域となり、新たな出店ができなくなる。

8 事業手法の基本的な考え方

(1) 事業手法の基本方針

これまでの図書館では、公共がサービスの提供主体でしたが、1998年にはNPO法（特定非営利活動促進法）ができ、翌年1999年にはPFI法（民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律）が制定されました。また、2003年には地方自治法の改正で「指定管理者制度」が始まりました。これらの法制度の整備に伴い、図書館の管理運営のあり方が多様化しつつあります。2004年4月には、山梨県にNPO法人を初めて指定管理者とした山中湖情報創造館が開館し、同年10月には、三重県でPFI方式による桑名市立中央図書館が開館しました。その後も、指定管理者やPFI方式による図書館整備・運営が全国で見受けられます。

また、長年にわたる景気の低迷に伴う税収の落ち込みにより、市の財政状況は年々厳しくなっています。図書館の機能強化が求められる一方で、新たな職員の確保や蔵書の大幅な拡充を行うことは難しくなっている状況です。限られた予算のなかで、より良いサービスを提供していくために、柏市における現有資源を活用するとともに、正規職員による「根幹業務（図書館における企画、人事及び選書の決定、レファレンス等を想定）」への特化と「非根幹業務」への民間活力の導入や市民との協働、PFIをはじめとする様々な民間活力をいかした事業手法を検討します。

効率的で質の良いサービスをあらゆる市民に対して提供することが、この新中央図書館の究極の目的です。

(2) 事業手法の特徴

ア 従来型（一部委託）

公共の全般的な監督のもと，民間事業者が個別の業務に特定して遂行します。公共施設等の設計，建設，維持管理及び運営を個別に委託又は直接公共が実施する手法です。

(ア) メリット

- ・公共性の担保

管理権限は市にあること，図書の装備や貸出・返却等の非根幹業務の委託が一般的であることから，公共性は担保されます。

- ・事業選定の作業負担

通常の入札又は随意契約によるものであり，民間事業者及び公共の双方にとって相対的に作業負担が少なくなります。

(イ) デメリット

- ・民間ノウハウの活用

図書の装備や窓口業務等の非根幹業務について，単年度契約で委託し，仕様発注により委託内容も契約によって決められているため，民間の経営ノウハウや技術能力の活用の余地が小さくなります。

- ・リスク分担

リスクが生じた時に，都度協議して決定しますが，基本的に公共が責任を負います。

- ・財政支出

民間ノウハウの活用は非根幹業務に限られており，根幹業務においては民間ノウハウの活用及び，適正なリスクの分担が図れないため，全体的な事業に関して，コストの縮減があまり期待できません。施設の建設時に多額の財政支出（初期コスト）が発生します。

イ 指定管理者

公共による設計・建設の後，条例で定めた手続きに基づき議会の議決を得た団体を市が指定し，最終的な管理権限を市に残したまま，公の施設の管理・運営を一定期間その団体に管理代行させる制度。管理主体の範囲を民間事業者等に広げることで，住民サービスの向上，行政コストの縮減を図ろうとする手法です。

(ア) メリット

- ・ 民間ノウハウの活用

維持管理及び運営業務においては館長業務も含めた業務全般について委託が可能であるため，幅広い民間ノウハウの活用が期待できます。

- ・ リスク分担

維持管理・運営部分のみリスクの移転が可能です。しかし，基本的に公共が責任を負います。

- ・ 社会環境変化等への対応

3～5年の契約期間であるため，図書館システムにおける技術革新や社会経済環境の変化に対し柔軟な対応が可能です。

(イ) デメリット

- ・ 財政支出

民間ノウハウの活用は非根幹業務に限られていますが，維持管理及び運営業務のコストの縮減が期待できます。施設の建設時に多額の財政支出(初期コスト)が発生するのは，従来型の手法と変わりません。

ウ P F I

国や地方公共団体等が行ってきた公共施設等の設計，建設，維持管理及び運営を，民間の資金やノウハウを活用し効率的かつ効果的に実施する手法です。

(ア) メリット

- ・ 民間ノウハウの活用

施設の設計から運営までを一体的に民間事業者に委ね，民間事業者が設計段階から参入可能となることから，運営のしやすさを考慮した効率の良い設計が可能となります。

- ・ リスク分担

リスクの適正な分担により，事業費コストの削減が期待できます。

- ・ 財政支出

設計段階から民間事業者が参入することにより，施設のライフサイクルコストの削減が期待できます。また，財政支出は契約期間全体にわたって平準化が期待できます。

(イ) デメリット

- ・ スケジュール

着工までの手続に2～3年程度，時間を要します。

- ・ 社会環境変化等への対応

長期契約であるため，図書館システムにおける技術革新への対応等，社会経済環境の変化への対応が硬直的になります。

- ・ 事業選定の作業負担

民間事業者及び公共の双方にとって事業者選定に対する作業負担が大きくなります。

- ・ 図書館のPFI事業の前例が少ないのが現状です。

以上をふまえ，新中央図書館がより具体化していくなかで，効率的な事業手法を検討していきます。

9 今後の方向性

(1) ワークショップからパートナーシップへ

「理念」や「機能」といった言葉は、往々にして行政、図書館関係者、専門家には理解できても、市民には堅苦しくて、イメージや意見を導き出せないことがあります。まずは、現在の図書館の良いところ（TAKARA）と悪いところ（ARA）に対する思いを気軽に話し合いながら、自由活発な意見交換を行い、市民参加の雰囲気大切にしました。

そして、本年度の最後には、市民の新しい図書館像が見えてきました。これから次のステップへ向けて新たなスタートです。

市民との共通理解の醸成を図り、柏市の図書館の現状と今後を相互によく理解し、柏市らしい新しい図書館の魅力を創造していきます。

(2) 今後のスケジュール

基本構想は、新中央図書館のあるべき姿、理想とする計画のビジョンをたてる最初のステップでした。

次年度からは、この構想のビジョンを受け、実現性を考慮し具体的な整備計画をたてていきます。構想が「こころ」なら、計画は「骨格」をつくる作業です。事業費を勘案しながら、立地を早急に決め、規模、施設構成、展開、運営計画、事業手法等を具体的に設定していく最も重要なプロセスとなります。

今後も計画の進捗状況等について広く市民に公開し、新しい図書館の魅力を創出していきます。

【あ行】

・ IT

情報技術のこと。情報通信分野の基礎技術から，応用技術も含めて用いられることもある。また，パソコンやインターネットを代表とするネットワークを活用すること，コンピューター括やデータ通信に関する技術のことを総称的に表す語として用いられることもある。

・ アウトリーチサービス

福祉等の分野における地域社会への奉仕活動，公共機関の現場出張サービス等のこと。図書館においては，来館して図書館サービスを受けることができない人たち（入院患者，施設入所者，図書館から遠い距離にある人等）に対して行うサービスのこと。

・ アプローチ

敷地の入口から建物の玄関にいたる導入路のこと。

・ インターネット

個々のコンピュータ通信ネットワークを相互に結んで，世界的規模で電子メールやデータベース等のサービスを行えるようにしたネットワークの集合体のこと。

・ AV資料

Audio Visual資料の略。カセットテープ，ビデオ，音楽CD，DVD等の音響・映像資料の総称のこと。

・ NPO

Non-Profit Organizationの略。政府・自治体や私企業とは独立した存在として，市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体のこと。

・ エントランス

入口のこと。建物の入口で人の出入りや滞留の場としてゆとりを持った空間も含めて用いられることもある。

・ 横断検索システム

利用者が複数の図書館の蔵書情報を検索する際に，一度の検索条件入力・実行等の操作により，検索結果を表示するシステムのこと。

- ・ O C L C

Online Computer Library Center , Inc.の略。アメリカ合衆国を中心として世界各国の大学や研究機関で構成された非営利・メンバー制のライブラリーサービス機関のこと。

- ・ O P A C

Online Public Access Catalogの略。利用者が使えるコンピュータ化された図書館の目録のこと。

- ・ オリジナリティ

独自性のこと。新中央図書館では、柏市の現有資源をつなぐことで柏市らしい情報拠点をめざすこととしている。

- ・ オンライン・システム

通信回線を経由して、データ入力や処理の実行指示を行うことができるシステムのこと。実行結果も通信回線経由で受取ことができる。

【か行】

- ・ 開架

利用者が図書や雑誌を直接手にとって読めるようにしている書架のこと。開架の対語は閉架。

- ・ キャリア・アップ

今までの経験や職歴を活かして、さらに前進させていくこと。現在持っている以上の資格や能力を身につけること。

- ・ グループ学習

ある課題を解決するために、グループで協力し、研究を行うこと。

- ・ コンセプト

考え、概念のこと。新中央図書館では、「人と情報をつなぐ・人と人をつなぐ」をコンセプトとしている。

【さ行】

- ・ サービスポイント

同一の図書館網に属し、貸出や各種サービス等、直接利用者に対して図書館サービスの行われる場所のこと。

- ・ 書架

図書館の本棚のこと。書籍や雑誌等を収納するための棚のことであり、本箱、書棚ともいう。

- ・ 相互貸借

相互協力の一つで利用者の求めに応じ、自館において保持しない図書・資料等を図書館間で資料の貸借をし、利用者の要求に応えること。

【た行】

- ・ 大活字本

弱視者、高齢者を主な対象とし、大きな活字を用いて読みやすくした図書のこと。

- ・ 対面朗読

視覚等に障害を持つために、文字（墨字）を読むことが困難な人に対して、その要望に応じて朗読者が対面で資料を読むこと。

- ・ データベース

ある目的のために、関連性のある一定の情報を集めて使いやすいようにしたもの。近年、新聞記事情報、雑誌記事情報、書誌情報、百科事典情報等のデータベースを提供している図書館もある。

- ・ デジタル資料

電子的な媒体を用いた資料のこと。

- ・ デジタルツール

パソコン等の電子機器のこと。

- ・ デジタルレファレンス

パソコン等の電子機器を利用して行うレファレンスのこと。具体的には、携帯電話やインターネットのメールでレファレンスの受付や回答を行う。

- ・ 友の会

会員同士の交流を図りながら、図書館を通じて地域社会と地域文化への貢献をめざすボランティア組織のこと。図書館で活動するサークルやボランティア、図書館を利用する個人で構成される。

【な行】

・ ネットワーク

網の目のように作った組織，系列，つながりのこと。

・ ニーズ

要求のこと。新中央図書館では，利用者の声（ニーズ）を常に施設活動に反映させることをめざしている。

【は行】

・ 排架

図書資料を分類記号により，書架の位置を決めて配置すること。

・ パートナーシップ

行政・NPO・企業・ボランティア等が活動分野の垣根を越えて，それぞれの得意分野の違いを活かしながら一緒に活動に取り組むこと。

・ バックアップ

後援，支援のこと。

・ バックナンバー

雑誌等の定期刊行物の既刊号のこと。

・ バナー

インターネットのホームページ上の帯状の広告のこと。新中央図書館では，新たな収入源の一つとして検討している。

・ バリアフリー

高齢者や障害者等に配慮して，段差や仕切り等の様々なバリア（障害）を取り除いていこうとする考え方のこと。新中央図書館では，誰でも安心して使える施設となるよう，施設面，サービス面でのバリアフリー化をめざしている。

・ P R

事業内容や施策を多くの方に理解してもらうために行う活動のこと。新中央図書館では，多くの市民に図書館を利用してもらえよう，積極的なP Rを行うこととしている。

・ ビジョン

望ましい将来の姿のこと。

・ ブックスタート

乳幼児の健全な成長を図るため，親子が肌のぬくもりを感じながら子どもに絵本を使って「ことばかけ」をすることで，親子の絆をつくることの大切さを伝える運動のこと。柏市では平成14年度より開始した。

・ BDS（ブック・ディテクション・システム）

Book Detection Systemの略。磁気を利用した図書館用貸出手続き確認装置のこと。貸出手续をせずに資料を館外に持ち出そうとすると，センサーが反応して警報が鳴ったり，ゲートのバーが閉じたりする。

・ ブックポスト

利用者が貸出を受けた資料を，返却できるように設置した収納箱のこと。

・ ブックリスト

ある基準によって対象の資料を選択して，読書を薦めたり，資料を紹介するために作られた簡便な選定目録のこと。

・ フレキシビリティ

柔軟性のこと。新中央図書館では，時代やニーズの変化に対応しうるフレキシビリティのあるレイアウトにすることとしている。

・ ホームページ

インターネット上で公開されている文章群のこと。もしくはそのトップページのこと。

・ ボランティア

自発性に基づく活動又はそれに携わる人のこと。無償での活動をさすことが多いが，有償の場合もある。

【ま行】

・ メールマガジン

電子メールを利用し，発行者が購読者にメールで情報を届けるシステムのこと。

【や行】

・ ユニバーサルデザイン

障害者・高齢者・子ども・外国人等の区別なしに，全ての人がいやすいように製品・施設等をデザインすること。新中央図書館では，誰でも安心して使える施設となるよう，ユニバーサルデザインに配慮することとしている。

【ら行】

・ ライフスタイル

生活の様式，人生観，価値観を反映した生き方のこと。

・ ライフサイクルコスト（Life cycle cost）

製品や構造物などの費用を「製造～使用～廃棄」の段階をトータルして考えたもの。訳語として生涯費用とも，英語の頭文字からLCCともよばれる。

・ リクエストサービス

利用者の求める資料が図書館にない場合，他館からの借用や購入により資料を提供するサービスのこと。

・ レイアウト

空間や平面に目的物の構成要素を配置・配列すること。新中央図書館では，時代やニーズの変化に対応しうるフレキシビリティのあるレイアウトにすることとしている。

・ レクリエーション

仕事や勉強等の疲れを癒し，精神的・肉体的に新しい力を盛り返すための休養・娯楽のこと。

・ レファレンスサービス

調査・研究・学習のために必要な資料・情報を求める利用者に対して，図書館員が図書館資料等に基づく関連資料及び情報を提供するサービスのこと。

【わ行】

・ ワークショップ

参加者が専門家（進行役）の助言を受けながら，主体的かつ積極的に参加し，「双方向性」や「相互作用」を活かした学習や創造を行う場のこと。